
文化資源研究センター
活動報告

2014

人間文化研究機構
国立民族学博物館

はじめに

文化資源研究センターは2004年4月、国立大学の法人化に合わせ、民博が大学共同利用機関法人人間文化研究機構の一員として再編されたのを機に、博物館機能を有する研究所としての役割をより十全に発揮するために、研究戦略センターとともに設置されたものです。

文化資源研究センターは、研究活動を通じて蓄積されるさまざまな情報や資料、経験や組織を、社会での活用が可能な文化資源として改めてとらえなおし、その有意義な活用の方途を研究・開発することを目的としています。「文化資源」という言葉に託されているのは、人間が生みだした有形・無形の所産とそれをめぐる知を、民博の活動を通じて、より広く社会と共有しようという意志です。

研究の推進に伴う資料や情報の集積と発信は、調査・収集、資料管理、情報化、社会連携、展示といった分野からなる一連のプロセスを経て実現されます。文化資源研究センターはこうした各分野の基礎研究や開発研究を進めるとともに、民博の研究者が主体となって実施する「文化資源プロジェクト」と「文化資源計画事業」を支援し、その推進のうえでの企画調整を行なっています。

2014年度、文化資源研究センターでは、プロジェクトや事業の支援として、資料収集や映像番組制作、資料修復の技術開発、各種データベースの構築や展示活動、教育プログラムの開発実施など、71件のプロジェクトや計画事業の実施を企画調整しました。

展示に関しては、現地研究者との協働によるフォーラム型展示のコンセプトに基づき、本館展示場の南アジア、東南アジア展示を新しく構築しました。特別展については、「イメージの力——国立民族学博物館コレクションにさぐる」を、企画展については「みんなくおもちゃ博覧会——大阪府指定有形民俗文化財『時代玩具コレクション』」、 「未知なる大地 グリーンランドの自然と文化」を実施し、研究の成果を文化資源の活用を通して広く社会に公開しました。

本館展示の新構築は開館以来の全館を挙げての大プロジェクトであり、特別展、企画展も民博で推進されてきた研究の成果を社会のなかで共有するための重要な取り組みです。これらは、展示そのものにとどまらず、収集、保存、情報化のすべての分野にまたがる複合的な事業であり、文化資源研究センターはその全体の企画調整にあたっています。

民博は大学共同利用機関であり、博物館機能を有する文化人類学・民族学の研究所であるという、世界的に見ても類のないユニークな組織です。その特徴を最大限に発揮するため、私たち文化資源研究センターは大きな職責を担っています。この場を借りて、今後とも、各方面からのご助言、ご支援をお願いする次第です。

2015年12月
文化資源研究センター長
野林厚志

目 次

はじめに	2
文化資源研究センターの活動 2014（平成26）年度	
2014年度の活動概要	6
調査・収集分野	8
資料管理分野	9
情報化分野	11
社会連携分野	15
展示分野	17
文化資源関連事業	20
資 料 編	
調査・収集分野	23
資料1. 文化資源プロジェクト	23
資料2. 文化資源計画事業	25
資料3. 情報管理施設のプロジェクト的な業務	29
資料管理分野	30
資料1. 文化資源プロジェクト	30
資料2. 情報管理施設のプロジェクト的な業務	30
情報化分野	32
資料1. 文化資源プロジェクト	32
資料2. 公開したデータベース	34
資料3. 情報を修正・追加したデータベース	34
資料4. 「統合検索システム（nihuINT）」より公開したデータベース	35
資料5. 編集した研究用映像資料（文化資源プロジェクト）	35
資料6. 編集したビデオテーク短編番組と マルチメディア番組（文化資源プロジェクト）	35
資料7. 2014年度に公開した短編番組、マルチメディア番組、研究用映像資料	38
社会連携分野	47
資料1. 文化資源プロジェクト	47
資料2. 文化資源計画事業	48
展 示 分 野	65
資料1. 本館展示新構築（文化資源プロジェクト（機関））	65
資料2. 特別展（文化資源プロジェクト）	65
資料3. 企画展（文化資源プロジェクト）	66
資料4. 巡回展（文化資源プロジェクト）	66
資料5. 本館展示新構築の準備（文化資源プロジェクト）	67
資料6. 特別展・企画展の準備（文化資源プロジェクト）	67
資料7. その他の文化資源プロジェクト	68
資料8. その他の文化資源計画事業	70

文化資源関連事業	72
資料：JICA との連携による博物館学コース 2014年度研修内容	72
スタッフ紹介 (2014年度)	88

●.....●

文化資源研究センターの活動
2014(平成26)年度

●.....●

2014年度の活動概要

文化資源研究センターは、国立民族学博物館（民博）の文化資源の蓄積、管理や活用にかかわる多様な側面について、調査・収集、資料管理、情報化、社会連携、展示の分野を中心に、国内外の研究や実践活動の動向について情報を収集するとともに、先進的な基礎研究や応用研究を館内外の研究者とともに進めている。

また、文化資源研究センターは、民博の研究者が主体となって提案、実施する「文化資源プロジェクト」「文化資源計画事業」の推進を支援している。そのためセンター教員は、文化資源運営会議のもとにおかれた「資料収集・整理等専門部会」、「資料管理専門部会」、「展示場情報提供システム専門部会」、「博物館社会連携専門部会」、「拡大展示専門部会」に所属し、当該文化資源プロジェクト等の企画調整に当たっている。また、個別のプロジェクト、館全体に関わるプロジェクトを進めるうえで、情報管理施設と連携し、学術的観点、専門的観点ならびに大学共同利用、研究の観点から、活動内容の精査、検証、これに係る助言を行っている。

それぞれの専門部会に所属する文化資源研究センター教員は以下のとおりである。

〈専門部会〉	〈センター教員〉
資料収集・整理等専門部会	信田敏宏 日高真吾（部会長）
資料管理専門部会	園田直子（部会長） 日高真吾
展示場情報提供システム専門部会	福岡正太（部会長） 山本泰則
博物館社会連携専門部会	上羽陽子（部会長） 川瀬 慈
拡大展示専門部会	野林厚志 信田敏宏 日高真吾 福岡正太 吉田憲司（部会長）

本報告書では、活動内容を5つの分野別にわけて、各分野を担当する部会長が報告している。このほか課題別研修博物館学コース運営委員会のもとに、博物館学研修専門部会があり、本センターからのメンバーは以下のとおりである。

上羽陽子
川瀬 慈
久保正敏
園田直子（部会長）
林 勲男
日高真吾

吉田憲司

文化資源研究センターは、民博のいわゆる「博物館部門」に関する大部分の業務の支援を担ってきた。本館が博物館機能をもった研究所であることを具現化するうえで不可欠な組織である。

私は2014年の4月より文化資源研究センター長の任にあたり、前年度までセンター長を務めていた朝倉敏夫教授の問題意識を引き継ぐとともに、館内の教員がより積極的に本館の博物館部門の業務に関わることを念頭においた運営を試みた。具体的には、文化資源運営会議が所掌する各部会が文化資源研究センター教員にかたよった構成にならないように配慮するとともに、館全体の自己点検報告書にも「博物館部門」に関わる将来的な課題を明記し、「博物館部門」に関する館内外の関心を高めることを意識した。

館員の間に「博物館部門」の業務に対する意識の差が生じていることは以前から指摘されてきた。一方で、個々の館員は文化資源プロジェクトを含めた文化資源関連事業を通して「博物館部門」の活動には少なからずたずさわってきた。プロジェクト制の導入は、教員の「博物館部門」離れではなく、一部の教員が「博物館部門」に共通した業務にとりくまざるを得なくなり、それが固定化されていく状況を生み出したとも言える。これは、教員だけの問題ではなく、情報管理施設を含めた機関全体の予算と人員削減による当然の結果であろう。

そうしたなかで、常設展示の新構築、特別展、企画展の開催、標本資料、映像音響資料の収集から保存、管理にいたる博物館資料の基盤構築、各種データベースの公開や資料のデジタル化やコンテンツ化を実現させてきたのは、文化資源のもつ求心力であり、民博がそれを尊重してきたからにほかならない。

第2期中期計画は2015年度で終了し、2016年度からは、第3期中期目標、計画に沿った文化資源の構築と活用について新たな枠組が求められていく可能性がある。特に、今まで以上に共同利用という観点を十分にくみ入れたプロジェクト立案とその成果の検証がこれまで、文化資源研究センターならびに情報管理施設が中心となり培ってきたノウハウを生かしながら、博物館機能をもった研究所である民博の将来を見据えた対応が求められる。

(野林厚志)

調査・収集分野

調査・収集分野は、(1)標本資料・映像音響資料の収集、(2)標本資料・映像音響資料の整理・情報化、(3)標本資料・映像音響資料の利用・貸付、(4)収集・整理に関わる情報管理施設のプロジェクト的な業務に関する企画、調整を行う。主な作業は、以下のとおりである。

- 1) 文化資源プロジェクトとして実行されるもののうち、収集・取材のプロジェクト、ならびに資料整理・情報化プロジェクトの進行状況の点検と助言
- 2) 標本資料の貸付、映像音響資料の利用の適否の検討と促進
- 3) 購入・寄贈等の案件の事前確認と検討
- 4) 「みんなく映像民族誌」(DVD)の配付

2014年度の作業の概要について以下に示す。

- 1) 文化資源プロジェクトとして実行されるもののうち、収集・取材プロジェクト、ならびに資料整理・情報化プロジェクトの進行状況の点検と助言については、1,382点の標本資料を収集するとともに、2件の映像取材を実施し、19点の映像番組と2点のマルチメディア番組、12点の展示記録映像を取得した。これら個別の案件については資料編を参照されたい。
- 2) 標本資料の貸付、映像音響資料の利用の適否の検討と促進を図った。標本資料については、13機関に対して合計909点の資料の貸し付け利用があった。また、映像音響資料については、館内で97件(393点)、館外で94件(553点)の利用があった。
- 3) 購入・寄贈等の案件の事前確認と検討については、個々に検討と調整を進めた。それぞれの案件については資料編を参照されたい。
- 4) 「みんなく映像民族誌」(DVD)の配付については、研究用映像資料等11作品を4枚のDVDに収納した「みんなく映像民族誌」(第14集～第17集)を作成し、全国の国公立大学、都道府県中央図書館等のうち、591の機関に配付した。また、収集・整理に関わる情報管理施設のプロジェクト的な業務として、標本資料・映像音響資料を適切に管理し、有効に活用するための事業をおこなった。詳細は資料編を参照されたい。

(日高真吾)

資料管理分野

資料管理分野では、文化資源の調査・収集から社会還元へのフローのうち、資料管理に関わる基礎研究、開発研究、そして事業を推進するための企画・調整を行う。2014年度は、(1)「有形文化資源の保存・管理システム構築」(機関)(提案者:園田直子)と、(2)「東日本大震災で被災した文化財の保管環境に関する調査研究3」(提案者:日高真吾)、これらふたつの文化資源プロジェクトを実施した。前者は本館の資料管理に係わるものであり、後者は前者で得てきた知見や経験を応用、展開するものである。

(1) 文化資源プロジェクト「有形文化資源の保存・管理システム構築」

民博では研究の進展に伴い、毎年、各種の資料を集積している。本プロジェクトでは、これらの資料を体系的に管理するための調査や研究活動と、関連する活動や事業の企画、調整をおこなった。文化資源プロジェクトの枠内であるため年度ごとの申請となるが、毎年度計画を見直ししながら、継続的かつ戦略的に進めている。

プロジェクトでは、保存科学研究の成果をもとに、1)有形文化資源の保存対策立案、2)資料管理のための方法論策定、これらを主軸とした開発研究と臨床実験を実施した。その他、資料管理に係わる各種調査を指導、総括し、その調査結果を検証した。情報管理施設のプロジェクト的業務(標本資料関係は情報企画課、映像音響資料関係は情報システム課)と連携をとることで、総合的かつ長期的視点で全体計画を進めた。

1) 有形文化資源の保存対策立案

総合的有害生物管理(IPM)の考えのもと、有形文化資源の生物被害防除・殺虫対策に関わる資料管理活動を企画、調整、総括した。化学薬剤を用いない各種殺虫法の民族資料への適用として、多機能燻蒸庫の最終稼働確認とともに、多機能資料保管庫に併設した処理室の大型テントでの二酸化炭素処理と低酸素濃度処理の初動実験を実施し、その結果を検証し、稼働可能な状態に導いた。大型テントを利用した二酸化炭素処理は、再配架予定の船資料を対象に実施した。また、大型テントに納まらない大型船資料の包み込み二酸化炭素処理、展示中の大型資料の包み込み低酸素濃度処理を実施した。太陽熱を利用した高温処理の実用化に向けた処理実験を進めた。

①資料管理のための方法論策定

- 博物館環境調査(生物生息調査、温度・湿度モニタリング調査)を継続実施した。それぞれの調査結果は、人間文化研究機構・連携研究で開発した分析システムを活用して精査し、防虫対策立案と資料管理に役立てた。資料保存に係わる関連部署との間で空調連絡会を隔週開催し、温度・湿度に係わる情報と問題点を公有した。新設の多機能資料保管庫等における空気清浄度の環境調査結果を検証した。
- 展示・収蔵用の包材の材質調査を継続実施し、データベースにまとめた。これらの包材を用いて、資料の保管・収納を改良した。包材を選択するマテリアルテストを館内で実施できるよう、熱分解ガスクロマトグラフィーの分析条件を精査し、基礎的な分析ができるようになった。
- 収蔵庫の狭溢化対策として、第3収蔵庫に巻かれた状態で保管されていた資料の収納改善を目的に、収納・保管方法のプロトタイプを開発した。多機能資料保管庫の併設処理室での殺虫処

理の効率的運用を検討するとともに、資料再配架に向けた計画を立案した。第1収蔵庫改修計画を、関係部署とともに策定した。

- 資料収集・整理等専門部会と調整のもと、映像・音響資料の保存・保管体制の現状分析と方針策定に協力した。

②その他

①と②で得られた知見や成果を、情報管理施設・情報企画課と情報システム課の資料管理業務に反映させることで、プロジェクトの研究的側面と、各課の日常的な資料管理業務を有機的に連携させた。

(2) 文化資源プロジェクト「東日本大震災で被災した文化財の保管環境に関する調査研究3」

東日本大震災の文化財レスキュー事業の対象となった民俗資料が保管されている廃校を利用した一次保管場所の環境整備の方法論を策定することを目的としたプロジェクトである。宮城県気仙沼市旧月立中学校文化財収蔵庫と新潟県村上市奥三面歴史交流館収蔵庫とともに、総合的有害生物管理（IPM）の本格的導入により、生物害を及ぼす虫やカビに対して、一定の抑制機能を持たせることができた。

(園田直子)

情報化分野

情報化分野では、(1)資料の整理・情報化とデータベースの作成・公開にかかわる文化資源プロジェクトや文化資源計画事業（以下、プロジェクト・事業）、(2)ビデオテークや電子ガイドをはじめ展示場における情報提供にかかわるプロジェクト・事業の支援をおこなっている。これらは、文化資源運営会議の資料収集・整理等専門部会、展示場情報システム専門部会と連携し、実際の作業にあたる情報システム課、情報企画課の協力のもとに進められる。

(1) 民博がもつさまざまな文化資源を整理・保管し、それらの情報を採録、データベースやデジタルアーカイブを作成して公開する2014年度の活動は次の4つに大別できる。

1) 資料の整理

情報化を前提として、写真やスライドをデジタル化し、その基本情報をテキストデータとして採録するプロジェクト・事業の実施を支援した。写真資料に関するものは、著作権の調査と譲渡手続、肖像権と一般公開の可否の検討もこれらのプロジェクト・事業に含まれている（資料編 情報化分野 資料1を参照）。

2) データベース、デジタルアーカイブの作成・データ追加と公開

データベースやデジタルアーカイブの作成と公開にかかわるプロジェクト・事業について、実施のためにさまざまな支援をおこなった（資料編 情報化分野 資料1～3を参照）。

以下は、個々のプロジェクト・事業として必ずしも明確化されていたわけではないが、民博の情報化にとって重要な活動の一環として支援をおこなった。

3) 標本資料情報の点検と修正、公開

標本資料情報に含まれる個人情報を処理し、処理済みの情報を館外公開しているデータベースに追加した。また、各標本資料に付随する画像を点検し、画像の向きや表示順序、データベースでの使用/不使用、画像のアクセスレベルの修正をおこなった。

以上の過程で発見された、標本資料の文字情報や画像情報、寸法・重量情報をそれぞれ管理するシステムの不具合を修正した。

また、新たに発行された民博関連の出版物の中から標本資料に関する記述部分の書誌情報を採録し、標本資料記事索引データベースに随時追加した。

4) 統合検索システムとの連携

人間文化研究機構が運用する「統合検索システム（nihuINT）」（機構全機関のデータベースを横断検索するシステム）に5つのデータベースを追加し、一般公開した（資料編 情報化分野 資料4を参照）。

これらのうち「ジョージ・ブラウン・コレクション」データベース〔日本語版〕は、2013年度に人間文化研究機構の「人間文化研究の連携共同推進事業」（資源共有化推進事業経費）の予算を得て、文字情報を点検・修正、いくつかの情報を補ってより精度の高いデータベースに

再構成したものである。同時に、収集地の位置（緯度経度）情報を今回新たに採録し、同データベースの日本語版と英語版に反映した。この結果、nihuiNTでは収集地の位置をGoogleマップに表示したり、地図の範囲を指定して資料をしぼりこむことができる。修正・追加した文字情報は、民博より公開しているオリジナル版にも反映している。

今年度新たに民博より公開したデータベースは1つのみであるが、すでに公開しているデータベースにデータを追加・修正したものは少なくない（資料編 情報化分野 資料3を参照）。

写真資料のデジタル化とデータベースの作成は、ここ数年の情報化プロジェクトの多数を占めているが、館外公開までできたものはない。写真や映像を含むデータベースを館外公開するためには、撮影者や著作権継承者を特定し利用許諾や著作権譲渡の了承を得ること、写真に写っている人物の肖像権を配慮して公開の可否を検討することが必要である。これらは時間を要する作業であるが、地道に継続してできるだけ多くの情報を公開できるよう努力することが不可欠である。

プロジェクトの中で「三次元CGを利用した民族建築デジタルアーカイブの構築」はユニークなものであり、完成して公開できれば、民博にとって新たな種類の貴重な情報資源となるであろう。

あいかわらず、標本資料の情報化が滞っている。標本資料の情報化について人の体制も含めた抜本的な見直しが必要であろう。

ところで文化資源運営会議の所掌ではないが、OPACや機関リポジトリ、民族学研究アーカイブズ、フォーラム型情報ミュージアムなどは、いずれも民博の重要な文化情報資源を構成している。これらと文化資源プロジェクト・事業が情報を共有し、いかに有機的に連携して情報発信するかを検討しなければならない。

最後に、民博として今後どのような情報を作成し提供していくことが大学共同利用機関として学界や社会に貢献することになるのか、長期の総合的な展望と戦略をたてることが文化資源研究センター創設以来の課題である。

(山本泰則)

- (2) 展示場における情報提供は、ビデオテーク、みんなく電子ガイドのほか、2011年度に新設された探究ひろばなどにおいておこなってきた。また、それぞれの展示チームの判断と責任により、いくつかの展示場においては、情報提供のための端末が展示の一部として設置されている。このうち、主にビデオテークとみんなく電子ガイドにかかわる事項について、情報システム課のサポートの下、文化資源研究センターの映像音響タスクフォースが中心となり、展示場情報提供システム専門部会と連携して、システムの運用および維持管理における諸問題の検討、本館展示の新構築に伴う新コンテンツ作成の計画と実施、次世代システムの検討と実験等をおこなった。

1) ビデオテーク関連

ビデオテークは、2012年3月に更新をおこなって以来、順調に運用を続けている。2014年度は、151,911人の本館展示入場者があり、のべ61,746回の番組リクエストがあった(図1)。また、ビデオテーク番組およびシステムの活用を進めるため、みんなくビデオテークビューアを試作した。これはスタンドアローンのパソコンを利用したシステムで、公共施設や展示場などにおいて楽しむのに適したシステムである。今後、このシステムの貸し出しなど、具体的運用の検討を進めたい。これらと並行して、ビデオテークと他の博物館や公共的なビデオライブラリーの比較調査を行い、次世代のビデオテークの検討を進めるためのデータの蓄積を進めている。

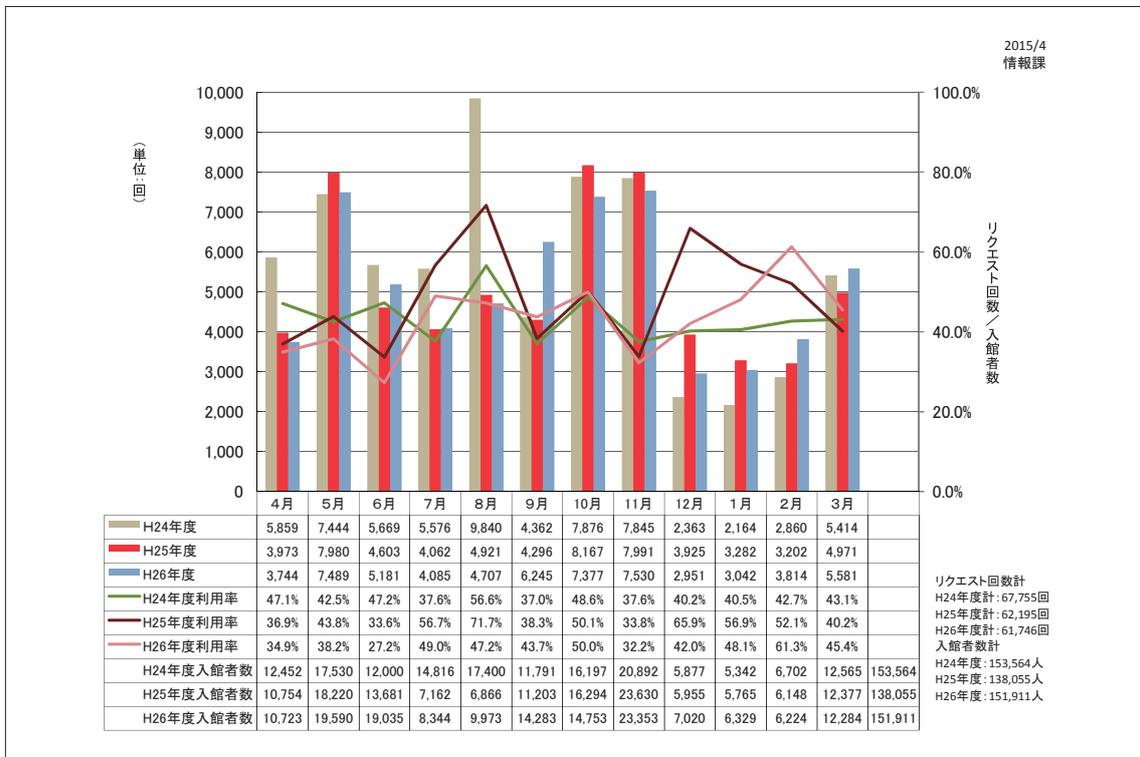


図1. ビデオテーク利用統計(リクエスト回数)

2) みんなく電子ガイド関連

2014年度のみんなく電子ガイドの貸し出し件数は8,974回であり、入館者の約6パーセントにより利用された(図2)。また、2013年度に「朝鮮半島の文化」、「中国地域の文化」、「日本の文化」(「沖縄の暮らし」および「多みんぞくニホン」セクション)展示の新構築が行われたことにもない、同展示にかかわる新番組45本の製作を行い、既存の番組と合わせて、新構築後の上記展示場の番組数は合計94本となった。それぞれの番組は、日本語版に加えて、英語、中国語、韓国語版を製作した。本館展示新構築の進展にもない、2014年度末までに、アフリカ、西アジア、オセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、朝鮮半島の文化、中国地域の文化、日本の文化の各展示について、4つの言語で新番組を製作し公開した。今後も継続的に多言語による番組製作を進める予定である。一方、iBeaconを使って位置情報を検知し、それに応じた情報提供を行う実験を進めている。

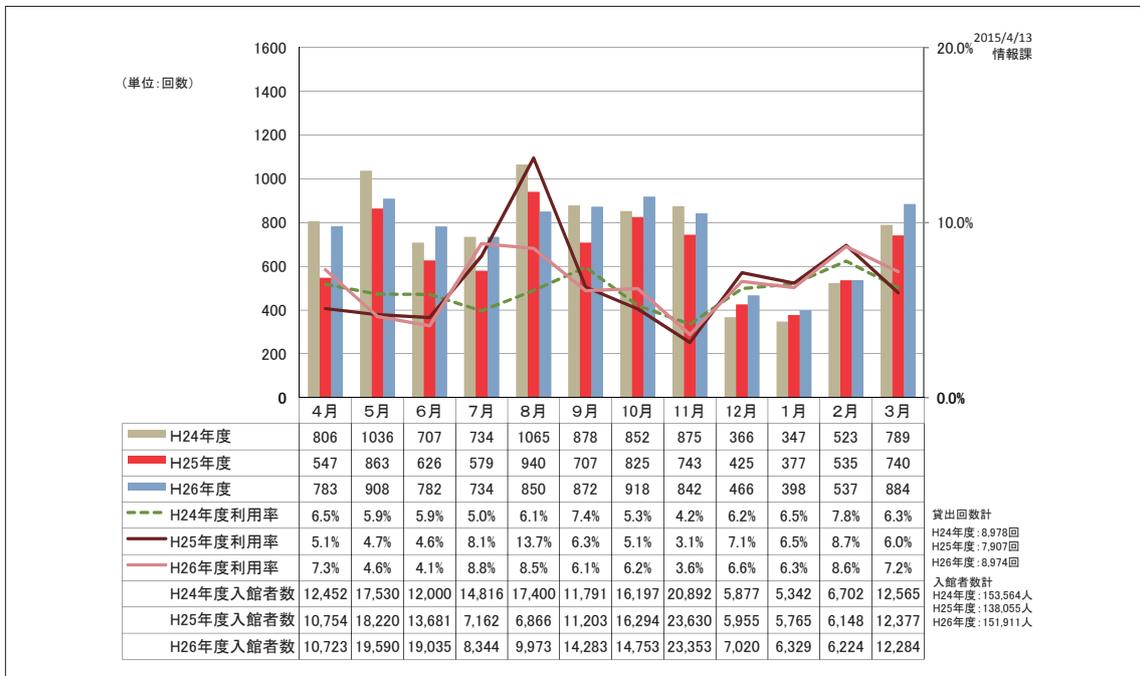


図2. みんなく電子ガイド利用統計(貸出回数)

(福岡正太)

社会連携分野

文化資源研究センターの社会連携分野では、国内外の博物館や大学等との学術連携、ならびに、来館者をはじめとした一般利用者との社会連携、教員等の学校関係者との博学連携を通して、民博における文化資源を系統的、有機的に幅広く共同利用していくためのネットワークづくり、手法開発、試行的実践に取り組んできた。具体的には、館内における博物館社会連携専門部会、博物館学集中研修専門部会、情報企画課社会連携グループ等と連携をとりながら、館内教員が提案した「文化資源プロジェクト」と、大学共同利用機関としての共同利用基盤を整備するとともに、研究成果を普及することを目的とした「文化資源計画事業」を遂行してきた。

【文化資源プロジェクト】

1) 博学連携教員研修ワークショップ2014 in みんなく

民博の展示場や所蔵資料を教育活動に活用した具体的な実践例をもとに、博学連携のさまざまな可能性をさぐるためのワークショップを、学校の教員対象に実施した。ワークショップは学校の教員研修に適した夏休みに原則として行い、ワークショップの実践とそれにもとづく議論を学校教員と民博のスタッフとの間でおこなった。

2) カムイノミ及び重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」演舞の実施

当館が所蔵するアイヌの標本資料に対して祈りの儀式（カムイノミ）を行い、併せて国の重要無形民俗文化財であるアイヌ古式舞踊の演舞を実施した。

【文化資源計画事業】

1) 「みんなく」の新規および改訂版の制作

学習キット「みんなく」は、学校機関や各種社会教育施設を対象に、本館の研究成果をわかりやすく伝えることを目的とした学習キットであり、2015年3月現在で14種類23パックが用意されている。異文化との出会いにおいてどのようにものを見つめ、それらと語ることができるのか、その先にある物語をどう読みとるのかという民博ならではのコンセプトで企画、設計されたものであり、総合学習への利用や民博見学に関わる事前、事後学習に活用されている。しかし、「みんなく」の中には損傷の激しいものや時代にあわなくなっているものがあるため、体系的に推進する方針を検討し、新規版「あるく、ウメサオタダオ展」と改訂版「ジャワ文化をまとう」の制作を実施した。また「アンデスの玉手箱」の改訂版の制作をおこなっている。

2) ワークショップの実施ならびにワークシートの運用

本館で行なわれる各種研究活動ならびに展示内容を、来館者を中心とした一般利用者により効果的、効率的に理解してもらうと同時に、一般利用者から様々な意見や情報をフィードバックさせることを目的としたワークショップならびにワークシートの開発を実施した。

3) ボランティア活動支援

本館に登録している2団体（みんなくミュージアムパートナーズ、地球おはなし村）の活動支援をおこなった。みんなくミュージアムパートナーズ（通称MMP）は、本館の博物館活動

の企画や運営をサポートする自律的な組織として2004年9月に発足した団体で、館内で視覚障がい者を対象とした展示場案内、休日・祝日等のイベント企画とその運営、学校団体向けの展示場体験プログラムの企画とその運営といった、多岐に広がる活動を本館との協働で進めている。地球おはなし村は、2003年に本館で開催した特別展「西アフリカおはなし村」を契機とし、2005年10月に発足した団体である。館内における音楽活動や昔話の語り活動等をおこなっており、近隣の児童センター、小学校および児童福祉施設などでも広く活動をおこなっている。両団体は、国立民族学博物館におけるボランティア活動を継続的に推進していて、当館にとって無くてはならない市民活動の場となってきている。両団体の活動内容の紹介や報告等を通じた交流も継続的に行なうほか、他組織とのボランティア交流会へも参加するなど、当館と市民をつなぐ結節点の一つとしての役割を果たしている。

(上羽陽子)

展示分野

文化資源研究センターにおいては、センター所属の教員が展示専門部会の部会長、その下部組織の特別展・企画展ワーキング・グループの主要メンバー、ならびに本館展示新構築総括チームのリーダー、展示場情報提供システム専門部会の部会長を務め、さらにその他のセンター教員もそれらの組織のメンバーとして活動するかたちで、民博の展示活動の企画・調整・支援に当たってきた。以下、「本館展示」、「特別展」、「企画展」、「その他」のそれぞれの分野に分けて、平成26年度の活動を報告する。

【本館展示】

平成26（2014）年度は、平成20年度から開始された本館展示新構築の第7年次にあたり、本年度は、南アジア、東南アジア展示の新構築を進めて、平成27年3月19日に一般公開した。

南アジアの展示では、展示場全体を5つのセクションに分け、宗教文化や生業・工芸の多様性、市を中心とした活気あふれる大衆文化、さらにはグローバル化のなかで花ひらく染織文化の姿を紹介した。南アジア地域は、北部の山岳地帯から西はアラビア海沿岸、東はベンガル湾沿岸にいたるさまざまな自然環境のもと、多様な宗教や文化、生活様式をもつ人びとが共存しあう知恵を育んできた。経済発展が著しい現代においても、その知恵は保たれている。新たな南アジア展示は、そうした南アジア文化の基層と現在の動態とを、躍動感に満ちた展示で表現している。

東南アジア展示は、「生業」「村の日常」「都市の風景」「芸能と娯楽」の4つのセクションから構成されるが、この区分は「東南アジアの1日」の区分と重ねあわされている。東南アジアの熱帯・亜熱帯の気候にくらす人びとは、早朝の涼しい時間から働きはじめ、40度近くに達する日中は屋内で昼寝などをして暑さをしのぐ。夕方、スクールが通り過ぎた後は、少し暑さが和らぎ、人びとは買い物や農作業に出かける。日が落ちて涼しくなると、友人や家族と屋台に出かけたり、演劇を見たりして余暇を楽しむ。新たな東南アジア展示は、この時間の流れを体感的に再現することに成功している。

本年度の本館展示新構築の作業により、南ブロック（オセアニア～西アジア）と中央ブロック（音楽～東南アジア）の新構築が完了し、残すのは北ブロック（朝鮮半島～日本の文化）のうちの中央・北アジアとアイヌの文化の展示だけとなった。新たな展示は、いずれも、当該地域の文化の歴史の変遷を踏まえつつ、現代における状況を、地球規模の文化の交流という視点から描き出す展示となっており、新構築の基本理念を明快に表現した展示が実現している。

【特別展】

平成26（2014）年には、吉田憲司（文化資源研究センター教授）を実行委員長として、9月11日から12月9日の会期で、秋の特別展として「イメージの力——国立民族学博物館コレクションにさぐる」を開催した。この展覧会は、同年2月から6月まで、東京・国立新美術館で公開した同タイトルの展示を民博の特別展として実施したものである。この展覧会は、国立民族学博物館開館40周年・日本文化人類学会創立50周年記念事業として位置づけられ、実際の展示企画と出品作品の選定も、民博の研究者と国立新美術館のキュレーター、日本文化人類学会の研究者の共同作業でおこなった。展示の内容は、民博のコレクションを通じて、人間の生み出すイメージの創造と享受の在り方に普遍性が存するか否かを検証するものであった。

国立民族学博物館と国立新美術館との協働により、美術（アート）と器物（アーティファクト）、芸術と文化、美術館と博物館、美術史学と文化人類学、西洋と非西洋といったさまざまな既成の区分を改めて問い直す展示企画が実現した。それはまた、美術館と博物館との共同が生み出す、新しい文化創造の場の可能性を提示するものともなった。

なお、同展はその後規模を縮小して、平成27年6月から8月まで福島県の郡山市立美術館へ巡回し、さらに平成28年には9月から12月まで香川県立ミュージアムでの開催が決定している。

【企画展】

民博では、特別展より規模が小さな、期間を限った展示を実施する場として、本館展示場の中に、企画展示場（展示面積約290㎡、大学共同利用型展示場）を設けている。平成26年度には、この展示場で、二つの企画展が実施された。

まず、平成26年5月15日(木)から8月5日(火)まで、日高真吾（文化資源研究センター准教授）の担当で、企画展「みんぱくおもちゃ博覧会——大阪府指定有形民俗文化財『時代玩具コレクション』」を開催した。この展示は、平成25年に大阪府より民博に寄贈された大阪府指定有形民俗文化財「時代玩具コレクション」を用いて企画したものである。同コレクションは、江戸時代から平成にかけての日本の玩具史を網羅しており、国内の玩具コレクションのなかでも大規模なものとなっている。展示は、ブリキ製玩具、ボード玩具（盤上玩具）、マスコミ玩具、カード玩具（絵札玩具）の4つのコーナーから構成されるが、そこに並ぶおもちゃの数々は、近現代日本の世相を映しだしている。この展示は、来館者の記憶を鮮やかによみがえらせてくれるものとなった。

次に平成26年9月4日(木)から11月18日(火)にかけては、岸上伸啓（研究戦略センター教授）の担当で、企画展「未知なる大地 グリーンランドの自然と文化」を実施した。この展示では、民博所蔵品を中心に、高円宮コレクション、デンマーク王室コレクション、グリーンランド国立博物館・文書館、北海道立北方民族博物館などの所蔵品や映像・音響資料を用い、最新の研究成果をもとに、グリーンランドの自然と、そこに住む人びと（イヌイット、自称カラーリット）の歴史と文化を紹介した。とくに、この企画展の第1部「世界観」のコーナーでは、グリーンランド人自身が中心となって自らの文化の世界観をトゥピラク像や仮面、一面太鼓を用いて表現した。日本人の多くはグリーンランドの名前は知っているものの、自然や歴史、現状については深い知識を持っていない。この企画展は、グリーンランドの文化に触れる貴重な機会となった。なお、同展の開幕式典には、出展物の所蔵者でもある高円宮妃殿下のご来臨を仰いでいる。

【巡回展】

平成26年度は、民博で企画・制作された展示の館外での巡回展が活発におこなわれたのが特徴であった。

平成26年3月21日(金)から5月6日(火)までは、埼玉県立歴史と民俗の博物館で、「屋根裏部屋の博物館——Attic Museum——」が開催された。この展示は、渋沢敬三の没後50年を記念して、平成25年9月から12月にかけて民博の特別展として開催された展示が巡回したものである。

また、平成26年9月から11月にかけては、上記の民博の企画展「みんぱくおもちゃ博覧会——大阪府指定有形民俗文化財『時代玩具コレクション』」が、岩沼市民図書館ふるさと展示室、石巻市「まんがる堂」2階オープンギャラリー、気仙沼「海の市」2階オープンスペース、東北歴史博物館の、宮城県内4か所で巡回開催された。この展示に向けては、低コストで汎用性のある

展示システムが開発され、被災文化財の確実な保存、継承にむけたモデルが示された。この試みは、展示を通じた被災地の復興支援として注目を集める結果となった。

【その他】

以上のほか、平成26年度には、吉田憲司（文化資源研究センター教授）と平井康之（文化資源共同研究員・九州大学大学院准教授）の担当で、次世代ユニバーサルミュージアムを目標とし、研究者・来館者双方の視点から五感を活用した鑑賞のあり方を明らかにする手法の開発に取り組んだ。まず、ユニバーサルミュージアムの達成度を評価し、博物館同士の比較を可能にするユニバーサルミュージアムマトリクス（評価表）を作成し、民博を含むいくつかの事例を取り上げて、実際の評価の比較をおこなった。また知覚鑑賞にいたる具体的な解決策として、音声案内機能を搭載したデジタル触地図のプロトタイプの開発・改善を、前年度に引き続いておこなった。これらの研究の成果は、今後、本館展示新構築の内容に反映させていくこととしている。

（吉田憲司）

文化資源関連事業

【JICA との連携による博物館学コース】

民博は、2004年度以降、独立行政法人国際協力機構（JICA）から全面的委託を受けて、滋賀県立琵琶湖博物館とともに、集団研修「博物館学コース」を企画・運営している。このコースの目的は、博物館運営に必要な、収集・整理・保存・展示・教育に関する理論と実践的技術の研修を実施し、博物館を通して途上国各国の文化振興に積極的に貢献できる人材を育成するものである。

研修は、大きく、博物館専門家としての知識や技術の習得、日本の博物館の経験や知識の共有、そして博物館専門家同士が、国を越えて、自由に経験や知識、問題点や課題の検討などができる、そうした「フォーラムとしての場」を設けることをねらいにしている。「博物館学コース」は、博物館学を包括的に取り扱う研修となっていて、世界的にも類を見ない特徴のあるコースであり、研修参加者からの評価は高い。今後とも内容の充実をはかりながら、組織的に継続していきたい。

開設以降、名称や内容を発展的に変更しながら継続してきており、2012年度からは、博物館資料の管理について保安や防災のカリキュラムを強化するとともに、博物館の運営についても自らが立案し、実践・普及できるよう研修項目を増加して、観光関連分野との連携を視野に入れるなど研修内容を充実させた。名称も「博物館学」コースと改めている。研修には、毎年、世界の国や地域から約10名を受け入れ、研修期間は約4ヶ月間におよぶ。受け入れ側の講師は、合計70名ほどで対応している。

2014年度は、4月14日の来日、オリエンテーション、健康診断などの後、共通プログラムと個別研修プログラムを含めた本コースが、4月21日から7月18日にかけて実施された。コースの参加資格は、原則として25歳以上45歳以下、大学卒業もしくは同等の学力を持ち、収集、ドキュメンテーション、保存、展示、教育などの博物館活動での実務経験を3年以上有し、研修内容を十分に理解できる英語能力を備えている者である。これらの条件を満たした、以下の4カ国から計10名が参加した。

エジプト	Mr. Ahmed Shehata Orabi	大エジプト博物館保存修復センター
エジプト	Mr. Rezaq Diab Ghodery	大エジプト博物館収集課
エジプト	Ms. Eman Mohamed AMIN	大エジプト博物館展示・考古学調査部
ジャマイカ	Ms. Tendi Farai HENRY	ジャマイカ協会
ジャマイカ	Ms. Elizabeth Monique MORRISON	ジャマイカ協会
ジャマイカ	Ms. Nicole Latoya PATRICK-SHAW	ジャマイカ協会自然史博物館 ジャマイカ協会プログラム部
ミャンマー	Ms. Khin Saw Win	バガン考古学博物館
ミャンマー	Mr. Khin Maung Soe	ネピドー国立博物館
パレスチナ自治政府	Mr. Saleh AWAD	観光遺跡庁
パレスチナ自治政府	Mr. Sufyan DEIS	観光遺跡庁古物文化財局

【国際的ネットワーク】

「博物館学」コース（2012年度、2013年、2014年度実施）と、その前身である「博物館学集中

コース」(2004～2011年度、8回実施)、さらにその前進となるJICA「博物館技術(収集・保存・展示)研修コース」(1994～2003年度、10回実施)の修了者は、JICA研修参加者190名、民博の外来研究員26名、あわせて56の国・地域から216名に達している。民博にとって貴重な財産といえる海外の博物館とのネットワークが、2014年度の研修によりさらに充実した。

なお、本コースのニュース・レターとして2014年8月に発行した下記の刊行物に、より詳細な記録が掲載されている。

Steering Committee for the Comprehensive Museology Course, *Museum Co-operation 2014: Newsletter of the Comprehensive Museology Course*, National Museum of Ethnology, Japan, 2014.

(園田直子・博物館学研修専門部会長)

資料編

調査・収集分野

資料1. 文化資源プロジェクト

1. プロジェクト名：中央・北アジア展示新構築のための標本・映像音響資料収集

提 案 者：藤本透子 民族文化研究部

事業の概要：2015年度の中央・北アジア展示新構築のため、中央アジア（カザフスタン、ウズベキスタン）、ロシア（シベリア）、モンゴルで、生業、生活文化、儀礼、宗教実践、社会主義などに関わる標本資料（481点）、写真資料及びデジタルデータを収集した。

2. プロジェクト名：和太鼓の製作工程と伝統技術の継承に関する映像取材

提 案 者：寺田吉孝 先端人類科学研究部

事業の概要：大阪市に伝承されている和太鼓の製作方法を、各工程で用いられる技術と職人の身体の動き・流れに焦点を当てながら詳細に映像記録した。取材は、部落解放同盟浪速支部、太鼓製造業の株式会社太鼓正（大阪市浪速区）、および太鼓皮製造業の株式会社ナカモト（同西成区）の全面的協力を得て、計9日間おこなった。

3. プロジェクト名：「アイヌの文化」展示新構築のための資料収集

提 案 者：齋藤玲子 民族文化研究部

事業の概要：2015年度に実施する「アイヌの文化」展示の新構築のために、アイヌの工芸家らによる現代作品、およびアイヌ民族復権運動の先駆者であった山本多助氏（1904-1993）の子息・文利氏が所蔵する民具や観光に関する資料等を収集した。

4. プロジェクト名：中国雲南省の少数民族の儀礼とキリスト教文化に関する映像番組の編集

提 案 者：横山廣子 民族社会研究部

事業の概要：過去に実施した文化資源プロジェクトの撮影映像及び申請者が調査で撮影した映像を編集し、中国雲南省の少数民族に関するビデオテークを製作する2ヶ年計画の1年目。今年度は回族の婚礼とリス族およびミャオ族のキリスト教文化に関する3本の番組を製作した。

5. プロジェクト名：「ラージャスターン州の生活・信仰・儀礼」に関する映像資料の編集と現地語版の作成

提 案 者：三尾 稔 研究戦略センター

事業の概要：2011年度に実施した映像音響資料取材プロジェクト（「インド・ラージャスターン州における社会変容と婚礼」）の成果に基づき、取材資料をビデオ

オテーク・マルチメディア・コンテンツ番組として編集製作した。

6. プロジェクト名：カリंगा音楽に関するビデオテーク番組の編集
提 案 者：寺田吉孝 先端人類科学研究部
事 業 の 概 要：2008年度に収集した映像音響資料をもとに、フィリピン・ルソン島山間地域に居住するカリंगाの音楽を紹介するビデオテーク番組『祝いの音、勝利の記憶——フィリピン・ルソン島山地民の結婚式』および、その英語版、現地語（イロカノ語）版を製作した。
7. プロジェクト名：ビデオテーク番組 Guitars of Portugal の編集
提 案 者：寺田吉孝 先端人類科学研究部
事 業 の 概 要：2006年に収集した映像音響資料をもとに、ポルトガルのギター音楽文化を紹介するビデオテーク番組 Guitars of Portugal を製作した。
8. プロジェクト名：ビデオテーク番組 Guitars of Puerto Rico の編集
提 案 者：寺田吉孝 先端人類科学研究部
事 業 の 概 要：2008年に収集した映像音響資料をもとに、プエルトリコのギター音楽文化を紹介するビデオテーク番組 Guitars of Puerto Rico を製作した。
9. プロジェクト名：トゥバ映像記録の資料編の編集
提 案 者：佐々木史郎 先端人類科学研究部
事 業 の 概 要：2012年度に取材した映像資料をもちいて、2013年度に「トゥバの人々」に関するビデオテーク番組4種類（ロシア連邦トゥバ編、中国編、モンゴル編、総集編）をそれぞれ4カ国語（日本語版、中国語版、モンゴル語版、ロシア語版）で製作した。また、総集編については英語版も製作した。加えて、2014年度には長編番組「トゥバ人たちの住むところ」（日本語）を製作した。
10. プロジェクト名：研究公演「神への祈りと喜びの舞曲——バッハからバルトークへ——」にもとづくビデオテーク番組の制作
提 案 者：新免光比呂 民族文化研究部
事 業 の 概 要：本館で開催した研究公演を文化資源として活用するために、ビデオテーク番組（マルチメディアコンテンツ）1本を製作した。
11. プロジェクト名：ネパール関連のビデオテーク番組の編集
提 案 者：南真木人 文化資源研究センター
事 業 の 概 要：2013年度に現地撮影した映像を用い、「ネパール 都市の結婚式」、「ネパール 山村の結婚式」、「ネパールの金細工」、「カトマンドゥ盆地の30年」の計4本のビデオテーク番組を製作した。

12. プロジェクト名：彫金技術の映像取材と番組制作
提 案 者：日高真吾 文化資源研究センター
事 業 の 概 要：2015年度に寄贈が予定されている園幸雄氏の彫金製作用具の受け入れに伴い、各道具の使用方法和彫金技術に関する記録映像を撮影し、ビデオテープ番組として9本の番組製作をおこなった。

13. プロジェクト名：展示記録映像のあり方に関する実践的研究（機関）
提 案 者：日高真吾 文化資源研究センター
事 業 の 概 要：企画展「みんぱくおもちゃ博覧会——大阪府指定有形民俗文化財『時代玩具コレクション』」及び「未知なる大地 グリーンランドの自然と文化」において、展示記録をデジタルアーカイブスにするための手法を実践的に検討し、展示記録パノラマムービー2本を製作した。

資料2. 文化資源計画事業

1. プロジェクト名：「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作：韓国国立民俗博物館との交流事業
提 案 者：朝倉敏夫 民族社会研究部
事 業 の 概 要：平成26（2014）年度は、3年計画の2年次として、本館「朝鮮半島の文化」に関する映像資料収集の新たなシステムを構築するため、韓国国立民俗博物館との交流協定に基づき協議を行い、梨花女子大学、江原大学、安東大学で映像人類学を専攻する学生たち3チームに研修を受けさせ、2015年3月までに作品を製作、提出させた。今後、本館においてビデオテープとして編集する予定である。

2. プロジェクト名：標本資料「ネパール・クリケット・ナショナルチーム・公式ユニフォーム」の寄贈受入
提 案 者：南真木人 文化資源研究センター
事 業 の 概 要：2014年度の南アジア展示新構築において展示する資料として、ネパール・クリケット・ナショナルチーム・公式ユニフォーム一式の寄贈を受け入れた。

3. プロジェクト名：標本資料「南アジア地域儀礼・祭礼等関係資料」の寄贈受入
提 案 者：三尾 稔 研究戦略センター
事 業 の 概 要：2014年度の南アジア展示新構築において展示する資料として、提案者本人が2013年にインドで購入した「南アジア地域儀礼・祭礼等関係資料」の寄贈を受け入れた。

4. プロジェクト名：標本資料「モンゴルシャーマン用衣装等資料」の寄贈受入
提 案 者：小長谷有紀 民族社会研究部
事 業 の 概 要：本館の中央・北アジア展示の新構築に利用するため、モンゴルにおける現代的なシャーマンの衣装および道具一式の寄贈を受け入れた。

5. プロジェクト名：標本資料「南アジア地域生活道具資料」の寄贈受入
提 案 者：南真木人 文化資源研究センター
事 業 の 概 要：2014年度の南アジア展示新構築において展示する資料及び関連資料として、インドとネパールの生活道具の寄贈を受け入れた。

6. プロジェクト名：標本資料「南アジア地域ポスター資料」の寄贈受入
提 案 者：三尾 稔 研究戦略センター
事 業 の 概 要：2014年度の南アジア展示新構築において展示する資料として、提案者本人が2005年以降にインドで購入した「南アジア地域ポスター資料」の寄贈を受け入れた。

7. プロジェクト名：標本資料「インド子ども用人形ほか資料」の寄贈受入
提 案 者：杉本良男 民族文化研究部
事 業 の 概 要：2014年度の南アジア展示新構築において展示する資料として、提案者本人が1990年代以降にインドで購入した「インド子ども用人形ほか」の寄贈を受け入れた。

8. プロジェクト名：標本資料「日本幻灯機資料」の寄贈受入
提 案 者：ピーター・マシウス 民族社会研究部
事 業 の 概 要：提案者本人が東京都町田市に在住の竹井久男氏から譲り受けた、1950年代の幻灯機およびサンプル・フィルムの寄贈を受け入れた。

9. プロジェクト名：標本資料「インド染織資料」の寄贈受入
提 案 者：上羽陽子 文化資源研究センター
事 業 の 概 要：インドの女性用ショール2点の寄贈を受け入れた。

10. プロジェクト名：標本資料「北タイ日系工場制服資料」の寄贈受入
提 案 者：平井京之介 研究戦略センター
事 業 の 概 要：2014年度の東南アジア展示新構築において展示する資料として、提案者本人がタイで入手した「北タイ日系工場制服資料」の寄贈を受け入れた。

11. プロジェクト名：標本資料「南アジア地域映画・音楽・衣装等関連資料」の寄贈受入
提 案 者：三尾 稔 研究戦略センター
事 業 の 概 要：2014年度の南アジア展示新構築において展示する資料として、提案者本人が2014年にインドで購入した「南アジア地域映画・音楽・衣装等関連資料」

の寄贈を受け入れた。

12. プロジェクト名：標本資料「インド装身具資料」の寄贈受入
提 案 者：上羽陽子 文化資源研究センター
事 業 の 概 要：インドの女性用の装身具82点の寄贈を受け入れた。
13. プロジェクト名：標本資料「ネパールのククリ・ナイフ」の寄贈受入
提 案 者：南真木人 文化資源研究センター
事 業 の 概 要：2014年度の南アジア展示新構築において展示する資料として、ネパールのククリ・ナイフの寄贈を受け入れた。
14. プロジェクト名：標本資料「パキスタンクリケットユニフォーム」の寄贈受入
提 案 者：吉岡 乾 民族社会研究部
事 業 の 概 要：提案者本人が2014年にパキスタン国内で入手した資料を、国立民族学博物館所蔵資料として寄贈を受け入れた。
15. プロジェクト名：標本資料「中国地域絵画（年画）資料」の寄贈受入
提 案 者：韓 敏 民族社会研究部
事 業 の 概 要：中国地域に関する標本資料、天津楊柳青木版年画・麒麟送子（2セット）の寄贈を受け入れた。寄贈された資料は、天津市西青区無形文化遺産である楊柳青木版年画の代表的伝承人である、鄭克祥氏が描いたものである。
16. プロジェクト名：標本資料「ドイツのクリスマス・ピラミッド」の寄贈受入
提 案 者：森 明子 民族文化研究部
事 業 の 概 要：ドイツのクリスマスツリーの非常に古い、ローカルな形を示す「クリスマス・ピラミッド」と呼ばれる木彫りの飾り物について、ベルリンヨーロッパ諸文化博物館（MEK）の仲介によって、ベルリン在住コレクターから本館への寄贈を受け入れた。
17. プロジェクト名：標本資料「世界文化遺産等を対象とした絵画」の寄贈受入
提 案 者：信田敏宏 文化資源研究センター
事 業 の 概 要：提案者が所有・管理している絵画を、国立民族学博物館所蔵資料として寄贈を受け入れた。寄贈受入した絵画のうち、「朝陽アンコール」については、東南アジア展示場横休憩所に展示した。
18. プロジェクト名：標本資料「モンゴル楽器資料」の寄贈受入
提 案 者：小長谷有紀 民族社会研究部
事 業 の 概 要：本館の中央・北アジア展示の新構築に利用する可能性も念頭におきつつ、モンゴルにおける伝統的な民族楽器2点の寄贈を受け入れた。

19. プロジェクト名：標本資料「インド映画ポスター資料」の寄贈受入
提 案 者：三尾 稔 研究戦略センター
事 業 の 概 要：インド映画の研究者・解説者である松岡 環氏が収集保存してきたインド映画のポスターの寄贈を受け入れた。
20. プロジェクト名：標本資料「中国地域資料（チベットの持仏入れおよび経文）」の寄贈受入
提 案 者：横山廣子 民族社会研究部
事 業 の 概 要：中国青海省のチベット族の持仏入れと経文の寄贈を受け入れた。経文はチベット族男性が首から提げる持仏入れの中に入れるためのものである。持仏入れは、工場生産品で、展示中の同種の資料と対比される現代の汎用品としての意味を持つ。
21. プロジェクト名：映像資料（DVD）「聖なる鉄琴『スロンディン』の音世界」の寄贈受入
提 案 者：福岡正太 文化資源研究センター
事 業 の 概 要：「聖なる鉄琴『スロンディン』の音の世界」DVD 1 枚を受け入れ、利用許諾を交わすと共に、資料として登録した。
22. プロジェクト名：標本資料「インドサリー資料」の寄贈受入
提 案 者：杉本良男 民族文化研究部
事 業 の 概 要：2014年度の南アジア展示新構築において展示する資料として、提案者本人が2004年にインドで購入した「インドサリー資料」の寄贈を受け入れた。
23. プロジェクト名：標本資料「ネパール花嫁衣裳資料」の寄贈受入
提 案 者：南真木人 文化資源研究センター
事 業 の 概 要：2014年度の南アジア展示新構築において展示する資料として、ネパールの花嫁衣裳の寄贈を受け入れた。
24. プロジェクト名：標本資料「フィリピン楽器資料」の寄贈受入
提 案 者：寺田吉孝 先端人類科学研究部
事 業 の 概 要：フィリピンのギター類弦楽器バンドゥリア 1 点の寄贈を受け入れ、楽器資料として保存した。
25. プロジェクト名：標本資料「ロシア拓本（シカチ・アリヤン岩面画）資料」の寄贈受入
提 案 者：佐々木史郎 先端人類科学研究部
事 業 の 概 要：北方ユーラシア学会とアンコールワット拓本保存会が、ロシア連邦ハバロフスク地方シカチ・アリヤン村に残されている岩面画から写し取った拓本の寄贈を受け入れ、2015年 5 月21日から 7 月21日に実施する企画展『岩に刻まれた古代美術：アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリヤン』において展示する。

26. プロジェクト名：標本資料「インド映画ポスター資料」の寄贈受入
提 案 者：杉本良男 民族文化研究部
事 業 の 概 要：提案者本人が収集保存してきたインド映画のポスターを、国立民族学博物館所蔵資料として寄贈を受け入れた。
27. プロジェクト名：標本資料「インドネシアプリント布資料」の寄贈受入
提 案 者：信田敏宏 文化資源研究センター
事 業 の 概 要：吉本忍名誉教授が所有しているインドネシアのプリント布を、国立民族学博物館所蔵資料として寄贈を受け入れた。寄贈受入したプリント布は、東南アジア展示場にて展示した。
28. プロジェクト名：標本資料「日本足踏み脱穀機資料」の寄贈受入
提 案 者：笹原亮二 民族文化研究部
事 業 の 概 要：大阪府高槻市内で使用されてきた足踏み脱穀機について、所有者に本館までの輸送を依頼、標本資料として寄贈を受け入れた。

資料3 情報管理施設のプロジェクト的な業務

1. プロジェクト名：みんなく映像民族誌の作成及び配付
提 案 者：情報システム課
事 業 の 概 要：本館製作のビデオテープ番組や研究用映像から10本を選び、みんなく映像民族誌第14集～第17集として4枚のDVDにまとめた。これを800セット分プレスし、591カ所の図書館や研究機関等に配付した他、テーマに応じ、個別のDVDを学会等に配付した。
2. プロジェクト名：標本資料の撮影等業務
提 案 者：情報企画課
事 業 の 概 要：標本資料を研究、展示、情報提供等に有効利用するために、5,068点の標本資料の撮影、計測、画像の利用及びそれらに付随する業務をおこなった。

資料管理分野

資料1. 文化資源プロジェクト

プロジェクト名：有形文化資源の保存・管理システム構築（機関）

提 案 者：園田直子

事業の概要：本プロジェクトでは、①有形文化資源の保存対策立案：総合的有害生物管理の考えに基づいた生物被害対策、②資料管理のための方法論策定：博物館環境調査と収蔵庫狭隘化対策、これら資料管理に関わる基礎研究・開発研究と事業を企画、実施、統括した。

プロジェクト名：東日本大震災で被災した文化財の保存環境に関する調査研究3

提 案 者：日高真吾

事業の概要：2012年におこなった「東日本大震災で被災した文化財の保管環境に関する調査研究」、2013年におこなった「東日本大震災で被災した文化財の保管環境に関する調査研究2」を継続発展させ、廃校を利用した、被災文化財の一時保管場所の効果的な運用対策について検証した。

資料2. 情報管理施設のプロジェクト的な業務

プロジェクト名：ビデオテープの媒体変換

提 案 者：情報システム課

事業の概要：本館所蔵映像資料であるD3テープは、再生機器の老朽化により早急な媒体変換が必要となっている。本年度は、105本のD3テープをXDCAM（PD128：42枚、PD100：2枚、PD50：6枚）へ複製をおこなった。

プロジェクト名：フィルム等の酸性度調査とベース調査

提 案 者：情報システム課

事業の概要：本館が所有する映画フィルム：3,028本、16mmシネテープ：42本、オープンリールテープ：405本を対象に、A-Dストリップスを封入した後、一定の時間を置いて酸性度を調査した。また映画フィルム：3,028本についてベース調査をおこなった。その結果、特に劣化の進んでいる資料は無かった。また、映画フィルムのベース調査の結果、TACベース：2,990本、PETベース：38本であることを確認した。

プロジェクト名：常設展示場新構築撤去資料の点検・クリーニング・再配架及びデータ整理作業

提 案 者：情報企画課

事業の概要：2013年度の新構築（中国地域の文化展示・朝鮮半島の文化展示・日本の文化展示）にともない撤去された1,062点の資料の状態のチェック（点検）、長期間展示されていた資料に関する情報のデータ作成および適切なクリーニングを行い、収蔵庫に再配架した。

プロジェクト名：第3収蔵庫収蔵資料の配架見直し及び再配架作業

提 案 者：情報企画課

事業の概要：第3収蔵庫内の資料5,281点の配架見直しおよび再配架作業を行い、標本資料の収蔵状況を改善し、新たな配架空間を確保した。

プロジェクト名：標本資料の補修・保存処理

提 案 者：情報企画課

事業の概要：展示場での資料点検、貸し出しなどの活用前後での資料点検の際に発見される資料の破損、汚損などの異常に対して、適切な処理を随時おこなった。新構築、あるいは特別展示に選定された資料、緊急に補修する必要がある資料などの補修を行い、資料を展示可能な状態にした。

情報化分野

資料1. 文化資源プロジェクト

1. プロジェクト名：京都大学学術調査隊関連資料の整理とデータベース作成

提 案 者：吉田憲司・久保正敏

計 画 年 次：3年計画の3年目

事業の概要：2011年度にみんぱくのデータベース検索システムより館内公開した「京都大学学術調査隊写真コレクション」に、2013年度と2014年度にデジタル化した写真資料9,995点をテキスト情報と共に追加した。また、共同研究者により、「京都大学アフリカ学術調査隊」の資料26,008件に対して、テキスト情報の修正・付加作業を行い、その結果をデータベースに反映した。さらに、「京都大学カラコラム・ヒンズークシ学術探検隊」と「第二次京都大学ヨーロッパ学術調査隊」コンテンツを新たに作成・構成し、館内公開した。

2. プロジェクト名：「大島襄二コレクション」の整理とデータベース作成

提 案 者：久保正敏

計 画 年 次：3年計画の1年目

事業の概要：大島襄二氏が、1967年～1991年にかけてアジアや大洋州などを、調査した時の記録写真9,150コマの整理（点検、概要把握、デジタル化のための資料選別）をおこなった。また、デジタル化対象資料の1,782コマについてはデジタル化を完了している。著作権については、著作権譲渡の事務処理完了済みである。

3. プロジェクト名：東大資料の目録（『土俗品目録』）のデータ化

提 案 者：佐々木史郎

計 画 年 次：2年計画の2年目

事業の概要：本館収蔵の東京大学理学部人類学教室旧蔵資料（受入番号50-501～524／K0000001～0004872番の資料）の原簿（『土俗品目録』）をスキャンしてデジタル化するとともに、そこに記されている内容を本館の標本資料学術データベースと照合できるように入力する。2013年度までに終えていた地域以外の資料4,872件について、『土俗品目録』のスキャンを終えた。また、その記載データをエクセル（Excel）で入力した。

4. プロジェクト名：「沖守弘インド民族文化写真資料アーカイブ」のデータベース作成

提 案 者：三尾 稔

計 画 年 次：3年計画の2年目

事業の概要：本プロジェクト予算では、上記のアーカイブ資料に含まれるスライド写真6,116点のデジタル化を実施した。別経費（地域研究推進経費）で、さらに2,121点のデジタル化をおこなった。テキスト情報については5,605点分を完了させた。

5. プロジェクト名：佐々木高明（故名誉教授）による写真資料の学術情報化プロジェクト

提案者：池谷和信

計画年次：2年計画の1年目

事業の概要：本資料は、日本やアジアにおける焼畑を中心とした山村生活の記録であると同時に、照葉樹林帯の文化を把握するために貴重なものである。このプロジェクトでは、資料の収蔵・保管・整理をしてデータベースとして公開する。2014年度は、データベースの作成に備えるための整理作業や、そのままでは見ることのできないネガフィルム（26,842点）のデジタル化をおこなった。また、日本の焼畑の専門家を招聘し、2014年度デジタル化資料のうちから8,968点分の写真を見ていただき、その一部のテキスト情報を作成した。

6. プロジェクト名：世界の身装文化デジタルアーカイブの構築

提案者：久保正敏

計画年次：単年度

事業の概要：世界の「身装——身体と装い」に関する標本、国内外の文献、写真等の様々な資料のうち、近代以降、現在に至るまでの学術的価値の高いデータを主として、衣文化全般に係る研究に耐えうるデジタルアーカイブの作成を目的とする。2014年度は本デジタルアーカイブを構成する次の3本のデータベースについて、専門の属性項目での分析を試み、〈衣服・アクセサリ標本〉3,463件、〈身装文献〉6,145件、〈近代日本の身装電子年表〉11,005件のデータを作成・登録・更新した。

7. プロジェクト名：三次元CGを利用した民族建築デジタルアーカイブの構築

提案者：佐藤浩司

計画年次：単年度

事業の概要：これまで文化資源プロジェクトで作製されたインドネシア諸民族の木造民家の三次元CGはおよそ50点にのぼる。2014年度は、これら資料のデータベースを公開するにあたって、実際の図面と齟齬がある8点のCGの修正をおこなった。また、新規にアロール島家屋のCG1点を製作した。

資料2. 公開したデータベース

1. 「ジョージ・ブラウン・コレクション」(日本語版)

宣教師であり神学博士でもあったジョージ・ブラウン氏が、19世紀から20世紀初頭にかけて南太平洋諸島で収集し、現在、国立民族学博物館に収蔵されている民族誌資料に関する基本情報。2014年6月27日にインターネットに公開〔2,992件〕

資料3. 情報を修正・追加したデータベース

(2015年3月31日現在)

1. 標本資料目録データベース

813件のデータを追加して、合計278,019件をインターネットに公開。

2. 標本資料詳細情報データベース

データを修正して、合計264,406件を館内公開。その内インターネット公開分は、前年度から7,916件増えて、合計57,724件である。

3. 標本資料記事索引データベース

5,779件のデータを追加して、合計56,440件をインターネットに公開。

4. 映像資料目録データベース

85件のデータを追加して、合計7,966件をインターネットに公開。

5. ビデオテープデータベース

66件のデータを追加して、合計710件をインターネットに公開。

6. 京都大学学術調査隊写真コレクションデータベース

9,672件を追加して、合計33,690件のデータを館内公開。

7. 図書・雑誌目録データベース

図書は、4,922件のデータを追加して合計661,037件をインターネットに公開。雑誌は、26タイトルのデータを追加して合計16,934タイトルのデータをインターネットに公開。

8. 梅棹忠夫著作目録(1934～)データベース

31件を追加して、合計6,504件のデータをインターネットに公開。

9. 衣服・アクセサリデータベース

2,248件のデータを追加して、合計23,733件をインターネットに公開。

10. 身装文献データベース

5,768件のデータを追加して、合計165,534件をインターネットに公開。

資料4. 「統合検索システム (nihulNT)」より公開したデータベース

1. ジョージ・ブラウン・コレクション [日本語版]

2014年6月26日、2,992件を新規公開。

2. ジョージ・ブラウン・コレクション [英語版]

2014年11月5日、2,992件を新規公開。

3. 図書目録

2014年12月17日、754,504件を再公開。以降、民博公開のデータベース更新に応じて、随時データを更新。

4. 雑誌目録

2014年12月17日、16,726件を再公開。以降、民博公開のデータベース更新に応じて、随時データを更新。

5. カウフマン・アフリカ古地図コレクション

2014年12月17日、301件を再公開。

資料5. 編集した研究用映像資料 (文化資源プロジェクト)

1. プロジェクト名: トゥバ映像記録の資料編の編集

番組タイトル: 「トゥバ人たちの住むところ」

担当教員: 佐々木史郎 (先端人類科学研究部)、小長谷有紀 (民族社会研究部)

資料6. 編集したビデオテープ短編番組とマルチメディア番組

(文化資源プロジェクト)

1. プロジェクト名: 中国雲南省の少数民族の儀礼とキリスト教文化に関する映像番組の編集

番組タイトル: 「ミャオ族の聖歌隊: 中国雲南省富民県西山教会献堂式」 (短編番組)

担当教員: 横山廣子 (民族社会研究部)

2. プロジェクト名：中国雲南省の少数民族の儀礼とキリスト教文化に関する映像番組の編集
番組タイトル：「リス語の讚美歌：中国雲南省怒江リス族自治州の教会」（短編番組）
担当教員：横山廣子（民族社会研究部）
3. プロジェクト名：中国雲南省の少数民族の儀礼とキリスト教文化に関する映像番組の編集
番組タイトル：「回族の婚礼：中国雲南省大理」（短編番組）
担当教員：横山廣子（民族社会研究部）
4. プロジェクト名：カリंगा音楽に関するビデオテーク番組の編集
番組タイトル：「祝いの音 戦いの記憶：フィリピン・ルソン島 山地民の結婚式」（短編番組）
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
5. プロジェクト名：カリंगा音楽に関するビデオテーク番組の編集
番組タイトル：「Sound of Bliss, Echoes of War: A Kalinga Wedding in the Northern Philippines」（短編番組）
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
6. プロジェクト名：カリंगा音楽に関するビデオテーク番組の編集
番組タイトル：「Kasar idiay Tabuk」（短編番組）
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
7. プロジェクト名：ビデオテーク番組 Guitars of Puerto Rico の編集
番組タイトル：「Guitars of Puerto Rico」（短編番組）
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
8. プロジェクト名：ビデオテーク番組 Guitars of Portugal の編集
番組タイトル：「Guitars of Portugal」（短編番組）
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
9. プロジェクト名：彫金技術の映像取材と番組制作
番組タイトル：「金属加工技術 彫金と鍛金1：金槌の種類」（短編番組）
担当教員：日高真吾（文化資源研究センター）
10. プロジェクト名：彫金技術の映像取材と番組制作
番組タイトル：「金属加工技術 彫金と鍛金2：器をつくる」（短編番組）
担当教員：日高真吾（文化資源研究センター）
11. プロジェクト名：彫金技術の映像取材と番組制作
番組タイトル：「金属加工技術 彫金と鍛金3：指輪をつくる」（短編番組）

- 担 当 教 員：日高真吾（文化資源研究センター）
12. プロジェクト名：彫金技術の映像取材と番組制作
番組タイトル：「金属加工技術 彫金と鍛金4：タガネをつくる」（短編番組）
担 当 教 員：日高真吾（文化資源研究センター）
13. プロジェクト名：彫金技術の映像取材と番組制作
番組タイトル：「金属加工技術 彫金と鍛金5：ペンダント」（短編番組）
担 当 教 員：日高真吾（文化資源研究センター）
14. プロジェクト名：彫金技術の映像取材と番組制作
番組タイトル：「金属加工技術 彫金と鍛金6：タガネの種類」（短編番組）
担 当 教 員：日高真吾（文化資源研究センター）
15. プロジェクト名：彫金技術の映像取材と番組制作
番組タイトル：「金属加工技術 彫金と鍛金7：糸鋸」（短編番組）
担 当 教 員：日高真吾（文化資源研究センター）
16. プロジェクト名：彫金技術の映像取材と番組制作
番組タイトル：「金属加工技術 彫金と鍛金8：キサゲ」（短編番組）
担 当 教 員：日高真吾（文化資源研究センター）
17. プロジェクト名：彫金技術の映像取材と番組制作
番組タイトル：「金属加工技術 彫金と鍛金9：地金を丸くする」（短編番組）
担 当 教 員：日高真吾（文化資源研究センター）
18. プロジェクト名：「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作：韓国国立民俗博物館との交流事業
番組タイトル：「現代韓国の結婚準備過程：スドメを知っていますか？」（短編番組）
担 当 教 員：朝倉敏夫（民族社会研究部）
19. プロジェクト名：「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作：韓国国立民俗博物館との交流事業
番組タイトル：「旧正月の風景：ユン・スジュンさん宅のソル茶礼」（短編番組）
担 当 教 員：朝倉敏夫（民族社会研究部）
20. プロジェクト名：「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作：韓国国立民俗博物館との交流事業
番組タイトル：「韓国の大学入試文化：大学入試を準備する特別な方法」（短編番組）
担 当 教 員：朝倉敏夫（民族社会研究部）

21. プロジェクト名：「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作：韓国国立民俗博物館との交流事業
番組タイトル：「강원도의 메밀음식」(短編番組)
担当教員：朝倉敏夫(民族社会研究部)
22. プロジェクト名：「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作：韓国国立民俗博物館との交流事業
番組タイトル：「자동차고사：안전을 기원하는 한국인의 염원」(短編番組)
担当教員：朝倉敏夫(民族社会研究部)
23. プロジェクト名：「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作：韓国国立民俗博物館との交流事業
番組タイトル：「2014 한국의 돌잔치」(短編番組)
担当教員：朝倉敏夫(民族社会研究部)
24. プロジェクト名：「ラージャスターン州の生活・信仰・儀礼」に関する映像資料の編集と現地語版の作成
番組タイトル：「(仮) インド・ラージャスターンの婚礼」(マルチメディア番組)
担当教員：三尾稔(研究戦略センター)
25. プロジェクト名：研究公演「神への祈りと喜びの舞曲——バツハからバルトークへ——」にもとづくビデオトーク番組の制作
番組タイトル：「神への祈りと喜びの舞曲——バツハからバルトークへ」(マルチメディア番組)
担当教員：新免光比呂(民族文化研究部)

資料7. 2014年度に公開した短編番組、マルチメディア番組、研究用映像資料

1. 「中国の遊び飛毬」(再公開)
中国の羽根けりは、二千年以上の歴史をもつ伝統的な遊びであり、スポーツである。その卓越した技を紹介する。(番組番号1409)
2. 「北京の四合院住居」(再公開)
北京や華北一帯の四合院式住居は、中庭を四方の棟で囲んでいる閉鎖式の方形民家である。(番組番号1419)
3. 「ネパールの仮面舞踏：マハーカーリーピャクン」(再公開)
制作監修：藤井知昭

神々が平和に暮らす天界に魔神たちが攻め込んできた。これにたちむかう3人の女神たち。(番組番号1448)

4. 「ニブヒ族の漁労生活」(再公開)

北サハリン東岸のノグリキ付近でおこなわれる、ニブヒ族の伝統的なマス漁法と干し魚づくりの様子をみる。(番組番号1449)

5. 「ウイлтаの伝統舞踊」(再公開)

中部サハリンのポロナイ川流域を父祖の地としてきたウイлта。彼らは自然の恵みに感謝しながら歌い、踊る。(番組番号1450)

6. 「ウイлтаのトナカイ飼養」(再公開)

北サハリン東岸のツンドラ地帯でトナカイ飼養をいとなむウイлта。飼育と管理の技術は年配の者から若者へと受け継がれる。(番組番号1451)

7. 「サハリンの先住・少数民族：州郷土博物館の展示から」(再公開)

サハリンの先住・少数民族のアイヌ、ウイлта、ニブヒ。彼らの伝統的な民族文化を、サハリン州郷土博物館展示を中心に紹介する。(番組番号1469)

8. 「サハリンの先住民族の民具」(再公開)

白樺の皮を用いた容器や特徴ある文様の木彫り製品、魚の皮でできた衣服など、サハリンに伝わる伝統的な民具をみてみよう。(番組番号1470)

9. 「ウイлта族の料理」(再公開)

サハリン中央部に暮らすウイлтаの、伝統的な民族料理や魚のさばき方を紹介する。(番組番号1484)

10. 「ニブヒ族のモス料理」(再公開)

魚の皮やゼラチン、ベリー類を使って作られたモス料理。ニブヒにとって特別な意味を持ち、重要な儀礼には欠かせないものである。(番組番号1485)

11. 「ニブヒ族の丸木舟と川漁」(再公開)

ニブヒに伝わる丸木舟。一本の木をくりぬいてつくられるその工程と、舟を使った川での網漁のようす。(番組番号1486)

12. 「エヴェンキ族のトナカイ飼養」(再公開)

北サハリン西岸のツンドラ地帯を夏の野営地とし、トナカイ飼養に従事するエヴェンキの男たちの一日を追う。(番組番号1487)

13. 「生神女就寝祭：マリア崇敬と巡礼 ルーマニア・ニクラ修道院」(再公開)
制作監修：新免光比呂（民族文化研究部）
生神女就寝祭の行事に見る巡礼のありかたを紹介する。(番組番号1505)
14. 「長浜曳山まつり」
制作監修：笹原亮二（民族文化研究部）
祭りの宵宮から曳山の巡行、曳山上での歌舞伎芝居の上演などを紹介する。(番組番号1713)
15. 「トゥバの人々 トゥバ共和国編」
制作監修：小長谷有紀（民族社会研究部）
ロシア連邦の一つトゥバ共和国には約25万人のトゥバ人が住んでいる。トージャ地方では彼らはトナカイを飼って暮らしている。(番組番号1714)
16. 「トゥバの人々 中国編」
制作監修：小長谷有紀（民族社会研究部）
中国新疆ウイグル自治区のハナス湖周辺には約3千人のトゥバ人が住んでいる。彼らはチンギス・ハーンの子孫だと自称している。(番組番号1715)
17. 「トゥバの人々 モンゴル編」
制作監修：小長谷有紀（民族社会研究部）
モンゴル国には約2万5千人のトゥバ人が住んでいる。パヤンウルギー県ではカザフ人とともに遊牧生活をしている。(番組番号1716)
18. 「トゥバの人々 ロシア 中国 モンゴル」
制作監修：小長谷有紀（民族社会研究部）
トゥバ人は、ロシア、中国、モンゴルの3カ国にまたがって住んでいる。ホームイと呼ばれるのど歌で知られている人びとである。(番組番号1717)
19. 「雲南省ペー族の楽土」
制作監修：横山廣子（民族社会研究部）
ペー族にとって、冠婚葬祭や儀礼の場面でスオナー（噴吶）の音は欠かせない。村一番の楽士、楊順銀さんの演奏が周城村に響き渡る。(番組番号1718)
20. 「雲南省周城村の春節」
制作監修：横山廣子（民族社会研究部）
春節には家族一緒に毎年恒例の食事を取り、神に祈りをささげる。あるペー族一家の、大晦日から正月二日までの様子を紹介する。(番組番号1719)
21. 「漢族の祖廟：中国福建省南部」
制作監修：韓 敏（民族社会研究部）

漢族の祖廟は父系親族の祖先の霊をまつところ。また、婚礼や葬儀、一族の重要な会議などもここで行われる。(番組番号1720)

22. 「福建省安溪県の烏龍茶 鉄観音」

制作監修：韓 敏 (民族社会研究部)

鉄観音は、茶葉を半発酵させて作る烏龍茶の一種。鉄観音の生みの親と言われる茶農家の9代目・魏月徳さんを訪ねた。(番組番号1721)

23. 「客家のふるさと 福建土楼」

制作監修：韓 敏 (民族社会研究部)

客家とは、中国語の客家方言を話す漢族の支流の一つ。世界遺産となった客家土楼にはかつて300人ほどが居住していた。(番組番号1722)

24. 「ネパールの仮面舞踏：マハーカーリーピャクン」(日本語字幕版)(再公開)

制作監修：藤井知昭

神々が平和に暮らす天界に魔神たちが攻め込んできた。これにたちむかう3人の女神たち。(番組番号2448)

25. 「現代韓国の結婚準備過程：スドメを知っていますか？」

製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

現代の韓国で結婚儀礼の手順のように行われている「ス・ド・メ」。スドメとは何かを紹介する。韓国国立民俗博物館との共同製作番組。(番組番号2810)

26. 「旧正月の風景：ユン・スジュンさん宅のソル儀礼」

製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

旧正月に先祖に捧げる祭祀、ソル茶礼。ユン・スジュンさん宅での茶礼の方法を紹介する。韓国国立民俗博物館との共同製作番組。(番組番号2811)

27. 「韓国の大学入試文化：大学入試を準備する特別な方法」

製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

大学入試までの学生や両親たちの準備や行事、入試当日の様子などを見る。韓国国立民俗博物館との共同製作番組。(番組番号2812)

28. 「The Masked Dance Drama of Nepal; Mahakali Pyakhan」(再公開)

制作監修：藤井知昭

Devils appeared to attack Gods' pantheon in peace. Three Goddess stand up to the devils.(番組番号3448)

29. 「Tuvans Russia, China, and Mongolia」

制作監修：小長谷有紀 (民族社会研究部)

Tuvan people live in 3 nations, Russia, China, and Mongolia. Their traditional throat singing, khoomei, is well known all over the world. (番組番号3717)

30. 「遠い記憶、呼びさます声：ダナンマル家の南インド古典音楽」

制作監修：寺田吉孝（先端人類科学研究部）

ヴェーナ・ダナンマルの家系に伝わる音楽は、南インドの古典音楽のなかでも特に難しいスタイルをもつ。当代の名手二人による研究公演の記録。(番組番号6049)

31. 「Voices of Distant Memories: South Indian Classical Music of the Vina Dhanammal Lineage」

制作監修：寺田吉孝（先端人類科学研究部）

The program features two South Indian classical vocalists in the Vina Dhanam lineage which is known to have an austere style. (番組番号6050)

32. 「のど歌のふるさと」

制作監修：小長谷有紀（民族社会研究部）

のど歌の起源地とされているトゥバとアルタイから国際的に活躍する歌手を招いた。伝統的な歌いかたの中に独自の工夫がみられる。(番組番号6051)

33. 「紙芝居で語る郷土玩具」

制作監修：日高真吾（文化資源研究センター）

自然素材を利用してつくられる郷土玩具には、素朴な味わいがある。玩具の由来となる物語とその製作方法について紹介する。(番組番号6052)

34. 「タマ：ハウサ族の鍛冶屋と伝統的製鉄技法」

制作監修：大森康宏

タマとは、ニジェール南部で産出する特別な鉄鉱石からつくりだす鉄のこと。ハウサ族の鍛冶屋が、タマの伝統的なつくり方を再現した。(番組番号7008)

35. 「ジェゴグ：悪霊ボマの響き」

制作監修：石森秀三・大森康宏

バリ島西部ヌガラ地方特有の楽器ジェゴグの演奏を紹介する。独特の響きを持っており、結婚式や成人儀礼などで演奏される。(番組番号7046)

36. 「ヤップ島の女性の踊り」

制作監修：石森秀三・大森康宏

ヤップ島では女性と男性で踊りが明確に区別されている。昔話や遠洋航海の物語などをテーマにした、女性の踊りを記録した。(番組番号7047)

37. 「サンゴ礁の島に暮らす：ミクロネシア・モグモグ島」
制作監修：石森秀三・大森康宏
ミクロネシアの小さな島モグモグ島。料理や酒づくり、キリスト教の教会で行われた葬式など、人々の暮らしをえがく。(番組番号7048)
38. 「1694年の涙：ニクラ修道院・生神女就寝祭」(再公開)
制作監修：新免光比呂(民族文化研究部)
生神女とは聖母マリアのこと。伝統ある修道院での祭りに人びとのあつい信仰心をみる。(番組番号7074)
39. 「烏帽子の子たち」
制作監修：大森康宏
烏帽子儀は村人の誇りを今に伝える重要な行事。儀式の準備から、青年たちが若連中に参加するまでの通過儀礼を記録した。(番組番号7100)
40. 「The Sons of Eboshi」
制作監修：大森康宏
The “Eboshi-gi” rite of Shizuhara-cho is the process of becoming a member of the Young Men’s Association. This film presents the complete ceremony. (番組番号7101)
41. 「勘右エ門派藤間流の踊り」
制作監修：大森康宏
日本舞踊の視覚表現の技術について、複数の視点で見くらべ、映像分析を試みた。踊り手の解説を聞きながら、身体の動きをみてみよう。(番組番号7110)
42. 「梵鐘づくり」
制作監修：近藤雅樹
梵鐘は溶かした青銅を鋳型に流し込みつくられる。型をつくる細心さ、溶けた青銅をあつかう一瞬に、伝統の技が光る。(番組番号7121)
43. 「中国青海省土族の暮らし」
制作監修：庄司博史(民族社会研究部)
山間の平地で小麦栽培をいとなむ農耕民の土族。日常生活を特徴的な民族衣装や伝統歌謡とともに紹介する。(番組番号7150)
44. 「三線をつくる：沖縄本島」
制作監修：笹原亮二(民族文化研究部)
沖縄の代表的な楽器である三線の製作工程と、三線を用いた沖縄の音楽を紹介する。(番組番号7169)

45. 「Life in a Cape Town Shack」
制作監修：池谷和信（民族文化研究部）
After the collapse of Apartheid, slum areas are expanding. This video records the every-day life of the people who migrate from any places of South Africa.（番組番号7177）
46. 「クレタ島の石工」
制作監修：大森康宏
ディアクマッキ兄弟に石造りの家の建設を依頼したザカリアさん。石職人の伝統的な技術によって、古い家が新しく生まれかわる。（番組番号7180）
47. 「雲南省大理ペー族自治州大理市周城村」
制作監修：横山廣子（民族社会研究部）
規模の大きなペー族の農村、周城。秋、夏、冬の年中行事、農作業、人生儀礼を通して、人々の暮らしやペー族の文化を描く。（番組番号7224）
48. 「漢族の祖先祭祀：福建省南部における一事例」
制作監修：韓 敏（民族社会研究部）
中国では、祖先の霊をあがめ、加護を祈る風習が今でも強い。祖先を大切にしながら名や子孫を残すことを生き甲斐とする人が多い。（番組番号7225）
49. 「Тувинцы из Тувинской республики」
制作監修：小長谷有紀（民族社会研究部）
В Тувинской республике Российской Федерации проживают 250 тысячи тувинцев. В Тоджинском районе проживают тувинцы - оленеводы.（番組番号8015）
50. 「图瓦人 图瓦共和国」
制作監修：小長谷有紀（民族社会研究部）
在俄联邦的图瓦共和国大约有25万图瓦人生活。他们在土家地区饲养驯鹿为生。（番組番号8016）
51. 「Тувачууд. Бүгд Найрамдах Тува Улс」
制作監修：小長谷有紀（民族社会研究部）
Оросын Холбооны Улсын бүрэлдэхүүнд багтсан Бүгд Найрамдах Тува Улсад 250 мянган тувачууд амьдардаг. Тоджийн районд цаа малладаг тувачууд суудаг.（番組番号8017）
52. 「Тувинцы из Китайской Народной Республики」
制作監修：小長谷有紀（民族社会研究部）
В районе озера Ханас, в Синьжан - Уйгурском автономном округе КНР, проживают 3 тысячи тувинцев. Они считают себя потомками Чингис хаана.（番組番号8018）

53. 「图瓦人 中国篇」
制作監修：小長谷有紀（民族社会研究部）
在中国新疆维吾尔自治区的喀纳斯湖周边生活着约 3 千个图瓦人。他们自称成吉思汗的子孙。
（番組番号8019）
54. 「Тувачууд , БНХАУ」
制作監修：小長谷有紀（民族社会研究部）
БНХАУ - ын Шинжан - Уйгурын өөртөө засах орны Ханас нуур орчимд 3 мянган тувачууд амьдардаг. Тэд өөрсдийгээ « Чингис хааны хойчис » гэж нэрлэдэг.（番組番号8020）
55. 「Тувинцы, проживающие на территории Монголии」
制作監修：小長谷有紀（民族社会研究部）
В Монголии проживают 25 тысячи тувинцев. Тувинцы и казахи проживают в Баян - Өлгийском аймаке, занимаясь кочевым скотоводством.（番組番号8021）
56. 「图瓦人 蒙古篇」
制作監修：小長谷有紀（民族社会研究部）
在蒙古国生活着约 2 万 5 千个图瓦人。他们在巴音乌里盖省与哈萨克人一起过着游牧生活。（番組番号8022）
57. 「Тувачууд, Монгол улс」
制作監修：小長谷有紀（民族社会研究部）
Монголд 25 мянга тувачууд суудаг. Баян- Өлгий аймагт тувачууд болон казахууд мал маллан амьдардаг.（番組番号8023）
58. 「Тувинцы в РФ, КНР, Монголии」
制作監修：小長谷有紀（民族社会研究部）
Тувинцы разделенно проживают в России, Китае и Монголии. У них популярно горловое пение -- хөөмий.（番組番号8024）
59. 「图瓦人 俄罗斯、中国、蒙古国」
制作監修：小長谷有紀（民族社会研究部）
图瓦人跨境俄罗斯、中国、蒙古国等三个国家而生活。以呼麦这一“喉歌”而被世人所知晓的人们。（番組番号8025）
60. 「ОХУ, БНХАУ, Монгол улсад амьдарч буй тувачууд」
制作監修：小長谷有紀（民族社会研究部）
Тувачууд Орос, Хятад, Монгол 3 улсад амьдарч байна. Тэд хөөмийгөөрөө алдартай.（番組番号8026）

61. 「현대 한국의 결혼 준비 과정 : 스프메를 아시나요?」
 製作 : 国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館
 현대 한국의 결혼 의례 절차인 ‘스프메’에 대해서 소개한다. 공동제작 : 한국
 국립민속박물관 (番組番号8027)
62. 「2014 설날 풍경 : 운수중씨 덕의 설차례」
 製作 : 国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館
 설날 조상에게 바치는 제사, 설차례. 운수중씨 집의 차례를 소개한다. 공동제작 : 한국
 국립민속박물관 (番組番号8028)
63. 「한국인의 수능문화 : 대학입시를 준비하는 특별한 방법」
 製作 : 国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館
 한국 학생과 부모들의 대학입시 준비와 각종 행사 그리고 입시 당일의 모습 소개한다.
 공동제작 : 한국 국립민속박물관 (番組番号8029)
64. 「北京ダック」(再公開)
 餌を強制的にあたえられ、肥育されたアヒル。北京の有名料理を紹介する。(番組番号 1145)
65. 「黄河文明と漢族」(再公開)
 漢族をはぐくんだ故郷のひとつといわれる黄河流域。変動を繰り返し成立した中国文明の一
 面をみる。(番組番号 1336)
66. 「ガインネ : ヒマラヤの吟遊詩人」(再公開)
 制作監修 : 藤井知昭
 ネパールにすむ音楽家コミュニティのガンダルバ。その日々の生活と楽器づくりをさぐる。(ガ
 イネは差別語とみなされ、現在はガンダルバと呼ばれる) (番組番号 1255)

社会連携分野

資料1. 文化資源プロジェクト

1. 博学連携教員研修ワークショップ2014 in みんなく（機関）

プロジェクト・リーダー：上羽陽子（文化資源研究センター）

2014年8月5日(火)に、博学連携教員研修ワークショップ2014 in みんなく「学校と博物館でつくる国際理解教育—センセイもつくる・あそぶ・たのしむ—」を、日本国際理解教育学会との共催で開催した。参加者は主に小・中・高等学校、支援学校等の教育機関教諭、大学生、大学院生、博物館職員など計111名（昨年度参加者数150名）。スタッフは、館内22名（内MMP3名）、館外35名であった。

2. カムイノミ及び重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」演舞の実施

プロジェクト・リーダー：齋藤玲子（民族文化研究部）

2014年11月27日に、本館が所蔵するアイヌの標本資料に対して、安全な保管と後世への確実な伝承を目的に、祈りの儀式（カムイノミ）をおこなった。併せて国の重要無形民俗文化財であるアイヌ古式舞踊の演舞を、一般公開で実施した。社団法人北海道アイヌ協会苫小牧支部の会員12名（男性4名、女性8名）と、同協会理事長（男性）により、2014年11月26日に準備と打ち合わせ、27日に公開でカムイノミと演舞、および館内向けに伝統食のふるまいをおこなった。カムイノミの準備と実際の儀式および演舞は、写真と動画で記録した。

3. 学習キット「みんなく」の新規および改訂版の制作

1) プロジェクト・リーダー：上羽陽子（文化資源研究センター）

新規制作の「展示版みんなく」「あるく、ウメサオタダオ展」は、2011年の特別展「ウメサオタダオ展」をもちいて、当該展示の資料を工夫して新規制作した。利用者がみずから展示場をつくりながら、資料を利用できるようにした。現行の「みんなく」と同様のサイズを展示版にするものであり、みずから移動する展示である。

2) プロジェクト・リーダー：福岡正太（文化資源研究センター）

本館の教育機関向け貸出キットである「みんなく」の「ジャワ文化をまとう」は、制作より10年以上が経過して老朽化し、一部内容物が欠損したまま運用してきた。そこで、2014年度に実施された東南アジア展示の新構築に合わせ、2013、2014年度の2ヶ年で、「ジャワ文化をまとう」パックの全面的な内容見直しを行い、改訂版1パックを製作した。

3) プロジェクト・リーダー：關 雄二（研究戦略センター）

本館の教育機関向け貸出キットである「みんなく」の「アンデスの玉手箱」は、制作より12年が経過して老朽化し、一部内容物が欠損したまま運用している。そのため、2015年度の改訂（2パック）に向けて基本コンセプトと内容を検討した。

資料2. 文化資源計画事業

1. ワークショップの実施ならびにワークシートの運用

プロジェクト・リーダー：上羽陽子（文化資源研究センター）

民博で行なわれている各種研究活動ならびに展示の内容を、来館者を中心とした一般利用者に、より効果的、効率的に理解してもらうと同時に、一般利用者からの様々な意見や情報を民博内にフィードバックさせることを目的としたワークショップならびにワークシートの開発を実施した。

●実施したワークショップ

夏休みこどもワークショップ

- ・貝からわかる 世界の暮らし ― みんぱくで貝を探してみよう！

2014年7月21日（月・祝） 参加者数：13名

（成果展示）2014年7月24日（木）～2014年8月5日（火）

企画展「未知なる大地 グリーンランドの自然と文化」関連ワークショップ

- ・グリーンランドの彫像トゥピラクを作ろう《紙粘土バージョン》

2014年9月7日（日） 参加者数：14名

- ・グリーンランドの彫像トゥピラクを作ろう《石けんバージョン》

2014年10月25日（土） 参加者数：12名

- ・グリーンランドの彫像トゥピラクを作ろう《紙粘土バージョン》

2014年11月2日（日） 参加者数：11名

特別展「イメージの力 ― 国立民族学博物館コレクションにさぐる」関連ワークショップ

- ・体感!! イメージの力

2014年11月22日（土） 対象：一般 参加者数：18名

2014年11月23日（日・祝） 対象：小学4年生～6年生 参加者数：6名

（成果展示）2014年11月27日（木）～2014年12月9日（火）

年末年始展示イベント「ひつじ」関連ワークショップ

- ・ゴシゴシ☆フェルト ― ふわふわ羊毛が大変身?!

2015年1月12日（月・祝）

①11：00～12：00 参加者数：12名

②13：30～14：30 参加者数：12名

③15：00～16：00 参加者数：12名

●ワークシートの運用

本館展示新構築にともない、ワークシート「みんぱく見どころアラカルト」の改訂作業をおこなった。本館展示新構築に伴い展示資料の変更があったため、HPに掲載しているワークシートが使用可能かどうか、すべて確認し、改訂作業をおこなった。

2. ボランティア活動支援

プロジェクト・リーダー：上羽陽子（文化資源研究センター）

国立民族学博物館におけるボランティア活動者の受入要項に基づき、登録したボランティア団体である MMP（みんなくミュージアムパートナーズ）および地球おはなし村の活動支援をおこなった。

● MMP による企画・実施したイベント

来館者サービス 1 グループ

・点字教室

2014年 4月12日(土)・5月10日(土)・6月14日(土)・7月12日(土)・9月13日(土)・10月11日(土)・11月8日(土)・12月13日(土)・2015年 1月10日(土)・2月14日(土)・3月14日(土)

* 8月は台風接近のため中止

・視覚障がい者案内（本館展示場）

2014年 4月8日(火)（個人）・5月2日(金)（個人）・5月23日(金)（守口市視覚障害者福祉協議会）・6月20日(金)（秋田県立盲学校）・6月22日(日)（津市ボランティア協議会）・6月27日(金)（個人）・7月3日(木)（神戸市立盲学校）・7月21日（月・祝）（個人）・9月1日(月)（個人）・9月16日(火)（藤井寺六星会）・9月26日(金)（かたるべの会）・10月2日(火)（三重県立盲学校）・10月10日(火)（広島中央特別支援学校）・10月16日(木)（新潟県立盲学校）・10月17日(金)（静岡南部特別支援学校）・10月23日(木)（長野県立松本盲学校）・10月30日(木)（京都府立盲学校）・11月7日(金)（神奈川県立相模原中央支援学校）・11月9日(日)（箕面市身体障害者福祉会視覚部）・11月28日(金)（岩手県立盛岡視覚支援学校）・12月4日(木)（志摩視覚障害者福祉会）・12月27日(土)（個人）・2015年 1月29日(木)（大阪市立視覚特別支援学校）・2月1日(日)（個人）・3月16日(月)（個人）

- ・京都府立盲学校保護者のみなさんのアイマスク体験による展示場案内 2014年12月5日(金)
- ・神戸市立博物館ボランティアとの交流会 7月25日(金)
- ・国立科学博物館職員の皆さんとの交流会 12月5日(金)
- ・MMP10周年記念ワークショップ「きり絵をつくろう！」実施 2014年 8月23日(土)
- ・スマスイボランティアフェスタ「世界の文様に親しもう！」 2015年 3月8日(日)

来館者サービス 2 グループ

・あそびの広場2014「あそぼ！鳴らそう！楽しもう！」

2014年 5月5日（月・祝）

参加者数：のべ1115名

・ワークショップ「手作り楽器を作って楽しもう」

2014年 7月27日(日)

参加者数42名

・ワークショップ「ボール紙でブーメランを作ろう」

2014年 9月15日（月・祝）

参加者数：59名

・折り紙教室「グリーンランドの生き物」

2014年10月25日(土)

参加者数40名

・ワークショップ「仮面で変身してみよう！」

2014年11月3日（月・祝）

参加者数17名

- 年末年始展示イベント「ひつじ」関連イベント「折り紙で遊ぼう！干支シリーズ『未』」

2014年1月12日（月・祝）

参加者数：51名

博学連携グループ

- 「わくわく体験 in みんなく」

2014年5月29日(木)	大阪市立思斉特別支援学校中等部1年生	36名
2014年7月25日(金)	川西市清和台公民館小学生	13名
2014年9月11日(木)	摂津市立鳥飼東小学校5年生	45名
2014年9月25日(木)	京都市立西総合支援学校中学部1年生	19名
2014年9月26日(金)	広島市立広島特別支援学校高校2年生	94名
2014年10月17日(金)	松原市立中央小学校4年生	97名
2014年10月28日(火)	京都女子大学附属小学校5年生	80名
2014年11月14日(金)	京都市立伏見南浜小学校6年生	89名
2014年11月18日(火)	和泉市立青葉はつが野小学校5年	167名
2014年11月28日(金)	大阪市立神津小学校6年生	63名
2014年12月16日(火)	羽曳野市立西浦東小学校5年生	45名
2015年2月28日(土)	大津市松が丘1丁目子供会	45名
2015年3月3日(火)	泉大津市立戎小学校2年生	78名

事務局

- ワークショップ「描き書き@みんなく ― 探して描こう！世界の楽器 ―」

2014年8月17日(日)、11月22日(土)

- 年末年始展示イベント「ひつじ」関連イベント「えとの未で絵馬をつくろう」

2015年1月18日(日)

3. 学習キット「みんなく」運用の実績

学習キット「みんなく」は平成26年度の運用を無事に終えることが出来た。26年度は、157の学校や社会教育施設に、のべ231回の貸出をおこなった。

運用を通じて利用者から得た要望や意見を今後の開発・運用に可能な限り反映させていく。

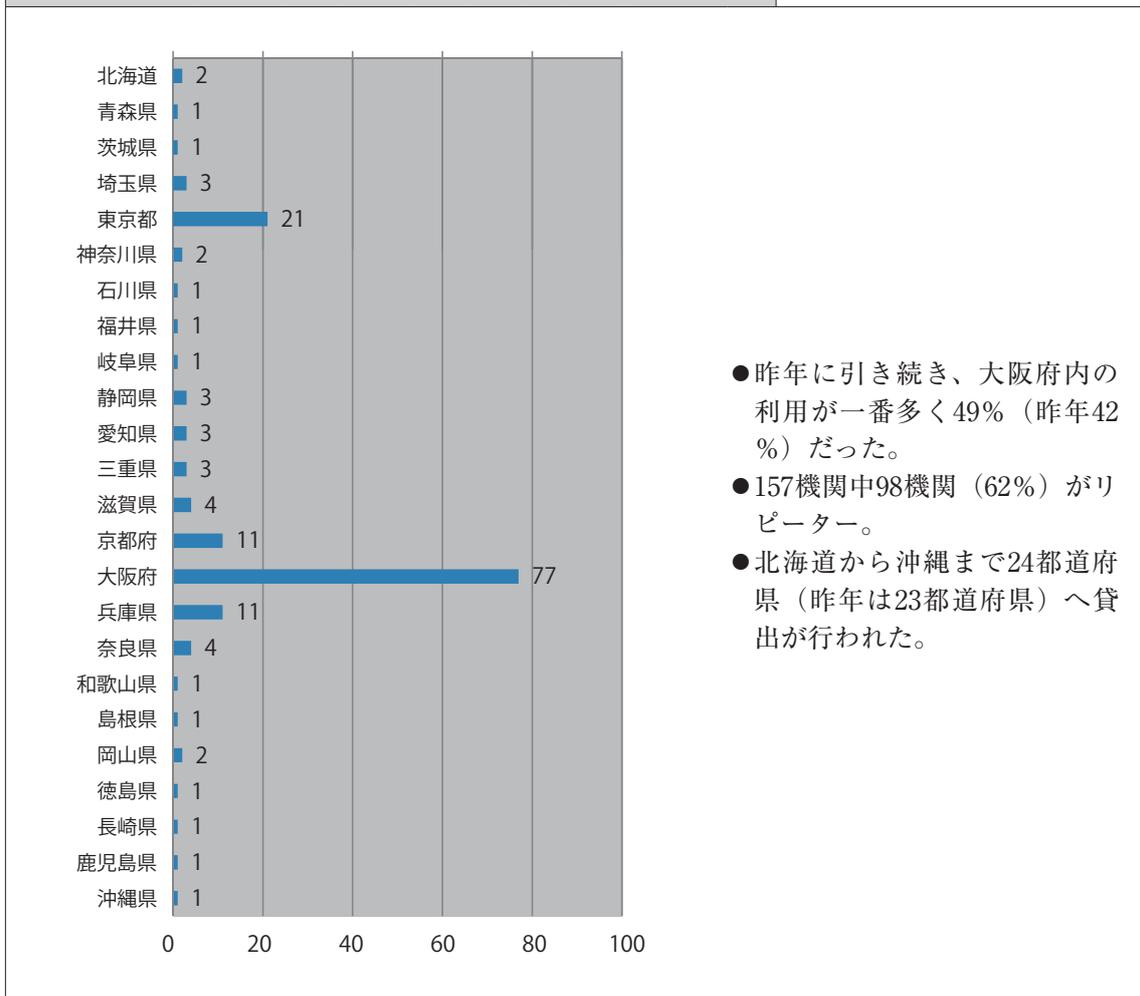
1) 運用について

1) 運用パック		
名 称	制作担当教員	個数
極北を生きる	岸上 伸啓	2
アンデスの玉手箱	關 雄二	2
ジャワ文化をまとう	福岡 正太	1
イスラム教とアラブ世界のくらし	西尾 哲夫	1
ブータンの学校生活	栗田 靖之	1
ソウルスタイル	朝倉 敏夫	2
ソウルのこども時間	朝倉 敏夫	2
インドのサリーとクルター	杉本 良男	2
プリコラージュ	佐藤 浩司	3
アラビアンナイトの世界	西尾 哲夫	2
アイヌ文化にであう	佐々木利和	1
アイヌ文化にであう2	佐々木利和	1
モンゴル	小長谷有紀	2
	計	22

2) 運用概況		
●貸出対象	小中高等学校 社会教育施設等	
●貸出期間	1回につき2週間以内	
●使用料	輸送費のみ利用者負担	
		25年度実績
◆貸出件数	231	227
◆貸出機関	157	151
	小学校	52
	中学校	15
	高等学校	18
	大学	19
	その他*	53
◆利用人数	13,416	11,262
	(サンプル129件中)	(サンプル114件中)

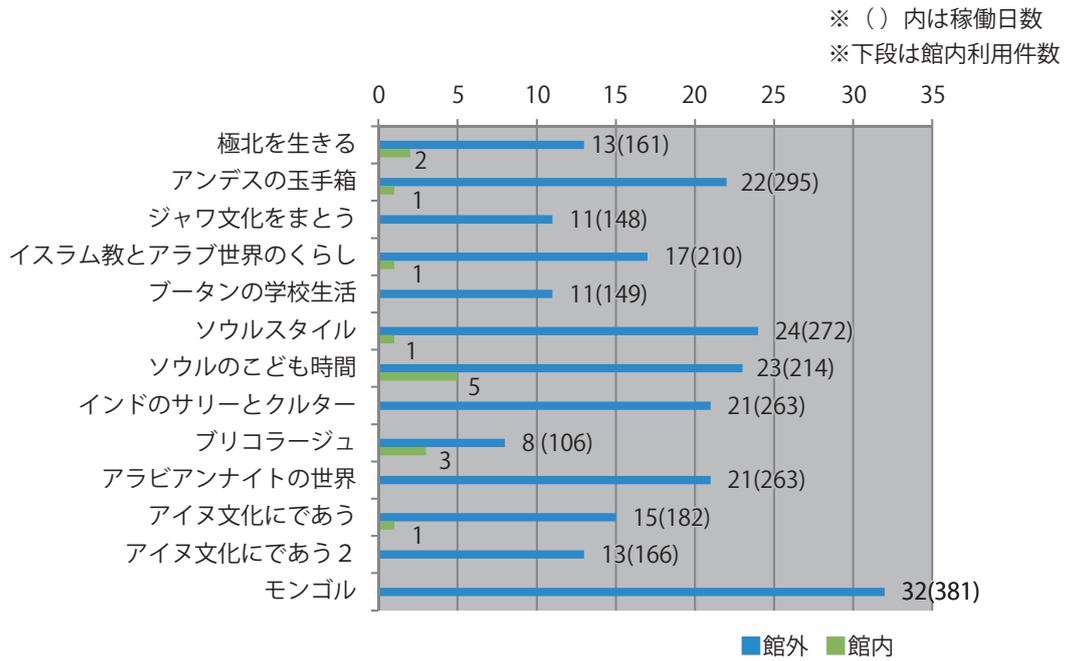
* 内訳は5)を参照ください。

3) 都道府県別利用状況 (貸出機関単位：合計157件)



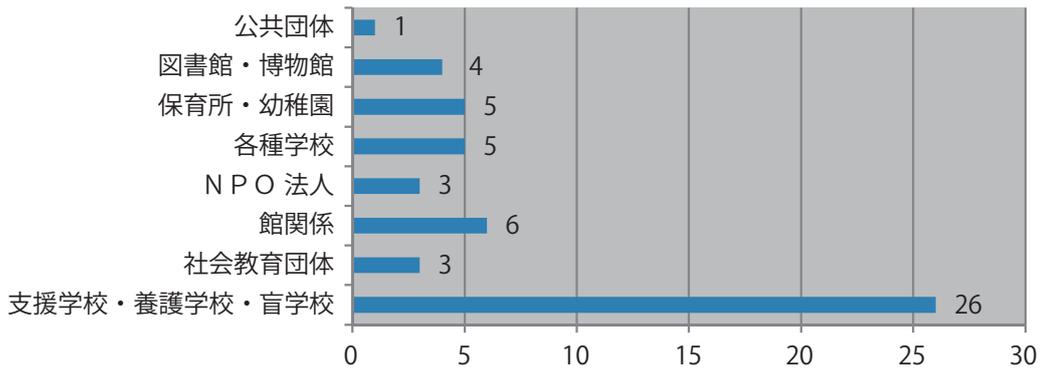
- 昨年に引き続き、大阪府内の利用が一番多く49% (昨年42%) だった。
- 157機関中98機関 (62%) がリピーター。
- 北海道から沖縄まで24都道府県 (昨年は23都道府県) へ貸出が行われた。

4) パック別利用件数 (館外231件、館内14件)



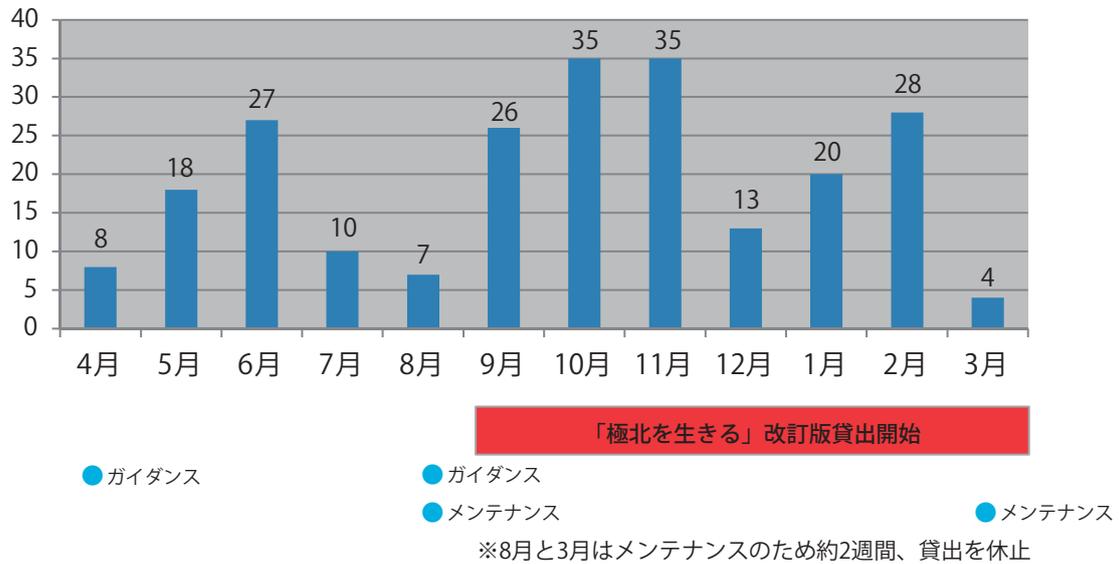
- 昨年度より貸出件数が4件増え、過去最多件数を記録した。
- 「ブリコラージュ」の貸出件数が昨年に比べ増加した。(昨年2件)
- 館内貸出では、「ソウルのこども時間」の利用が5件で最も多かった。

5) 貸出機関における「その他」の機関内訳 (53件)



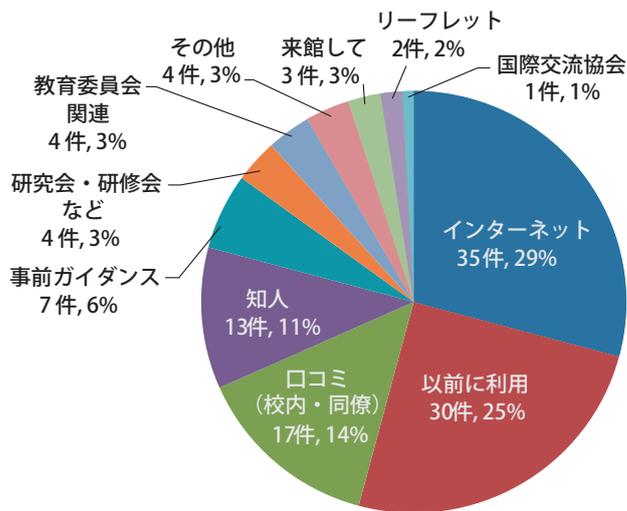
- 館関係が多いのはMMPが月別で何度か利用しているため。
- 支援学校等への貸出が増加している。(昨年は14件)

6) 年間スケジュールと月別貸出件数



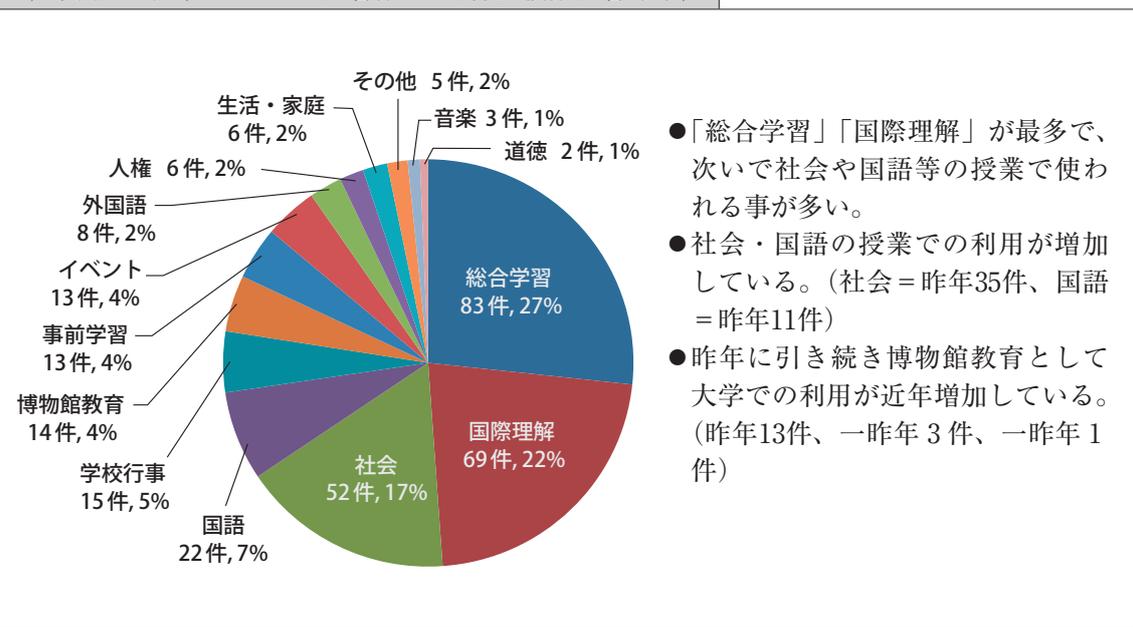
- 8月「極北を生きる」改訂版貸出開始
- 例年、夏休みや春休みの時期は利用件数が少ないが、今年度は3月のメンテナンス直前まで貸出があった。
- 2学期は学芸会や各種イベントが多いため昨年と同じく10月と11月の利用件数が伸びた。

7) 「みんぱく」の認知媒体 (アンケート回答数：120件、複数回答あり)



- インターネットでの認知件数が最も多い。
- リピーターや先生同士の口コミが多く見られる。
- 事前ガイダンスでの認知も少しではあるが増加している。(昨年4件)

8) 使用目的 (アンケート回答数: 311件、複数回答あり)



9) 運用コスト

● 衣装クリーニング代	250,000 円	● 運用開始から10年を過ぎ、内容物の劣化が激しく修理・補充の機会が増えている。またパックの種類も増加しているため、クリーニングや修理・補充には多くの費用を要する。今年度みんぱっくの運用・保守費としてかかった費用は約70万円であった。
● 資料補充・修理費	449,356 円	
計	699,356 円	

※一部執行予定を含む

10) 新規もしくは改訂版を制作したパック

改訂版「ジャワ島の装い 宗教と伝統」1パック、新規版「あるく、ウメサオタダオ展」1パック

2) みんなぱっく利用者からの要望（アンケートより）

- バックが重すぎて移動が大変だった。
- スーツケースにはじめに入っていたように収納するのがむずかしかった。
- 高校生でも着られるようなサイズの衣装があれば良い。
- 貸出期間をもう少し長くしてほしい。
- 他の地域の「みんなぱっく」も出来ると良い。

3) 平成26年度の取り組み <cstyle:>

- 13種類22バックすべてのCO2処理（3月）および衣装203点のクリーニング（8月・3月）
- 団体見学の下見来館者に対する「みんなぱっく」の案内（春・秋に行われるガイダンスにおいて）
- 「みんなぱっく改訂版『ジャワ（仮題）』」の制作（平成26年度文化資源プロジェクト）
- 「展示版みんなぱっく」の制作『あるく、ウメサオタダオ展』（平成26年度文化資源プロジェクト）
- Let's みんなぱっくの取材、更新作業
- オプション用ケースの整備

4) 来年度以降の取り組み <cstyle:>

- 「みんなぱっく改訂版『アンデス（仮題）』」の制作（文化資源プロジェクト）
- 「みんなぱっく改訂版『インド（仮題）』」の制作（文化資源プロジェクト）
- 団体見学の下見来館者に対する「みんなぱっく」の案内（春・秋に行われるガイダンスにおいて）
- Let's みんなぱっくの取材、更新作業
- 現行バックの資料の補充・ストックの確保、備品の交換
- ストックの在庫管理・分類整理
- ホームページ整備作業（モノ情報カードの統一・更新等）

自由研究はみんなくで解決!

世
界
の
暮
ら
し



貝
が
ら
わ
が
る

みんなくで貝を探してみよう!



日 時：2014年7月21日(月・祝) 10:30～16:00 (10:00 受付開始) 場 所：国立民族学博物館
対 象：小学4年生～6年生 定 員：15名 参加費：500円 ※別途展示観覧券(小学生110円)が必要です
講 師：飯田 卓(国立民族学博物館准教授) ファシリテーター：上羽陽子(国立民族学博物館准教授)

貝からわかる

かたくてキラキラした貝は、日用品や装飾品など、さまざまな手づくり品の素材として用いられます。

世界じゅうで使われている貝は、
そこでとれたものでしょうか、
それとも遠くから運んできたものでしょうか？

みんなくに展示されている貝製品から、
世界じゅうの暮らしを想像してみよう！

世界の暮らし

実施日：2014年7月21日(月・祝)

時間：10:30～16:00(10:00受付開始)

場所：国立民族学博物館 本館展示場

対象：小学4年生～6年生

講師：飯田 卓(国立民族学博物館准教授)

ファシリテーター：上羽陽子(国立民族学博物館准教授)

定員：15名 ※定員になり次第締め切りとさせていただきます。

参加費：500円 ※別途展示観覧券(小学生110円)が必要です。

持ち物：デジタルカメラ、昼食

※お弁当をご持参の方は、館内指定場所をご利用ください。
また、みんなく館内のレストラン、万博公園内のカフェもご利用いただけます。

応募方法：事前申し込み制(定員になり次第締め切りとさせていただきます。)

往復ハガキまたはEメールにて、下記内容を明記のうえご応募ください。1通につき1名までのお申し込みとさせていただきます。

- 1 参加者氏名(ふりがな)・学年
- 2 郵便番号・住所
- 3 電話番号
- 4 保護者氏名

応募先：

往復ハガキ 〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10-1
国立民族学博物館 情報企画課
「みんなく夏休み子どもワークショップ」係

Eメール workshop@idc.minpaku.ac.jp

※ご応募いただいた方には当館より結果をお知らせします。
※ご応募いただいた方の個人情報は、当館事業に関する目的以外では使用しません。



モザンビークで大量に採取されていたハナヒラダカラガイ(2006年撮影)

プロフィール：



講師：

飯田 卓(国立民族学博物館准教授)

世界各地の漁村を訪ねて人びとの暮らしを研究するうち、貝など海の生きものにも興味をもつようになりました。著書に「海を生きる技術と知識の民族誌——マダガスカル漁撈社会の生態人類学」(世界思想社2008年)、「身をもって知る技術——マダガスカルの漁民に学ぶ」(臨川書店 近刊)など。



ファシリテーター：

上羽陽子(国立民族学博物館准教授)

インドで牧畜を主な生業とする人びとの刺しゅうや染め、織りなどの手工芸品の研究をしています。著書に「インド・ラバーリー社会の染織と儀礼—ラクダとともに生きる人びと」(昭和堂2006年)、監修に「世界のかわいい民族衣装」(誠文堂新光社2013年)。

成果物について：

当日制作された成果物は、探究ひろば横休憩所(本館2F)で展示後、郵送にて返却いたします。

展示期間：2014年7月24日(木)～8月5日(火)

返却期間：2014年8月9日(土)～8月13日(水)頃

保護者の方へ：

見学される場合は、ごどもたちのフィールドワーク、成果物制作の手伝いをご遠慮ください。ワークショップに参加するすべてのごどもたちが、たのしく有意義な1日を過ごせるように、ご理解とご協力をお願いいたします。

お問い合わせ：

情報企画課 電話 06-6878-8532(土日祝除く9:00～17:00)

春の子どもワークショップの様子：



今回も先生の解説を聞いた、調査してわかったことを報告書にまとめるよ

国立民族学博物館

●開館時間…………… 10:00～17:00(入館は16:30まで) ●休館日…………… 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)

●観覧料…………… 一般420円/高校・大学生250円/小中学生110円

※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

交通のご案内

●大阪モノレール… 「万博記念公園駅」徒歩約15分
※自然文化園窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。

「公園東口駅」下車徒歩約15分

※自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。

●バス…………… [近鉄バス](阪大本部前行き)阪急茨木市駅から約20分、JR茨木駅から約10分

「日本庭園前」下車徒歩約13分

●乗用車…………… 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分

※「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

[大阪・万博記念公園]
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
情報企画課
Tel:06-6878-8532
(土日祝を除く9:00～17:00)
<http://www.minpaku.ac.jp/>



企画展「未知なる大地 グリーンランドの自然と文化」関連ワークショップ

グリーンランドの彫像 トウピラクを作ろう



紙粘土
バージョン

2014年
9月7日(日)、11月2日(日)

紙粘土と竹べらを使って「トウピラク」をつくります。

時間：13:30～16:30 (13:00 受付開始)

場所：国立民族学博物館 第3セミナー室、企画展示場

対象：小学1年生以上 (保護者などの付添は1名まで可)

定員：15名 (要事前申し込み / 先着順)

参加費：500円 (別途展示観覧券が必要です)

※ 付添者は展示観覧券のみ必要です

講師：田主 誠 (版画家)

岸上伸啓 (国立民族学博物館 教授)

石けん
バージョン

2014年
10月25日(土)

石けんと彫刻刀を使って「トウピラク」をつくります。

時間：13:30～16:30 (13:00 受付開始)

場所：国立民族学博物館 第3セミナー室、企画展示場

対象：15歳以上

定員：15名 (要事前申し込み / 先着順)

参加費：500円 (別途展示観覧券が必要です)

※ 中学生・高校生は無料観覧日のため展示観覧券は不要です

講師：田主 誠 (版画家)

岸上伸啓 (国立民族学博物館 教授)

写真：高円宮コレクション (赤坂友昭 撮影)

企画展「未知なる大地 グリーンランドの自然と文化」関連ワークショップ

グリーンランドの彫像トウピラクを作ろう

版画家・田主 誠さんを講師に迎え、トウピラク作りに挑戦。

グリーンランドの自然と文化、トウピラクについてのお話を聞いたあと
企画展示場に展示されているトウピラクからイメージを膨らませ、制作します。



トウピラクってなに？

グリーンランド・イヌイットの悪霊のこと。
もともとは人を呪い殺すためにシャーマンが操る悪霊でした。19世紀後半にキリスト教宣教師がその姿をイヌイットに描かせたことによって、その姿が知られるようになり、現在では、アート作品や観光土産品として作られています。



アーティスト、ピーター・エゲテ(グリーンランド観光局 提供)

応募方法

事前申し込み制
(定員になり次第締め切りとさせていただきます。)

往復ハガキまたはEメールにて、下記内容を明記のうえご応募ください。
1通につき1名までのお申し込みとさせていただきます。

★紙粘土バージョン 実施日 9月7日(日)、11月2日(日)

1. 参加希望日
2. 参加者氏名(ふりがな)、年齢
3. 郵便番号・住所
4. 電話番号
5. 付添者の有無
6. 付添者または保護者氏名

★石けんバージョン 実施日 10月25日(土)

1. 参加希望日
2. 参加者氏名(ふりがな)、年齢
3. 郵便番号・住所
4. 電話番号

応募先

- 往復ハガキ
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
国立民族学博物館 情報企画課
「企画展関連ワークショップ ○月○日参加希望」係
- Eメール
件名：企画展関連ワークショップ ○月○日参加希望
workshop@idc.minpaku.ac.jp

お問い合わせ

情報企画課 電話 06-6878-8532 (土日祝除く 9:00~17:00)

*ご応募いただいた方には当館より結果をお知らせします。*ご応募いただいた方の個人情報は、当館事業に関する目的以外では使用しません。

講師プロフィール



田主 誠(版画家)

1942年京都府生まれ。版画家。1969年から国内では現代日本美術展、シェル美術賞展(佳作賞)など、国外ではユーゴスラビア国際版画ビエンナーレ展など多数出品。1995年ニューヨーク国際メディアフェスティバル銀賞受賞。



岸上伸啓 (国立民族学博物館 教授)

アラスカやカナダの北方先住民の狩猟や生活について研究しています。著書に『イヌイット』(中公新書、2005年)、『クジラとともに生きる』(臨川書店、2014年)、『イヌピアット写真帳』(風土デザイン研究所、2014年)など。

資料写真：高宮宮コレクション(赤坂友昭 撮影)

紙粘土でつくると、石けんでもつくると、田があやよ。



国立民族学博物館

- 開館時間 10:00 ~ 17:00(入館は 16:30 まで) ● 休館日 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)
- 観覧料 一般 420 円 / 高校・大学生 250 円 / 小中学生 110 円
*観覧料割引についてはホームページでご確認ください。
- 交通のご案内
- 大阪モノレール 「万博記念公園駅」徒歩約 15 分
*自然文化園窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
「公園東口駅」徒歩約 15 分
*自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
- バス [近鉄/バス] (阪大本部前行き) 阪急茨木市駅から約 20 分、JR茨木駅から約 10 分
「日本庭園前」下車徒歩約 13 分
- 乗用車 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約 5 分
*「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

[大阪・万博記念公園]
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
情報企画課
Tel:06-6878-8532
(土日祝を除く 9:00~17:00)
<http://www.minpaku.ac.jp/>



みんぱく ワークショップ

国立民族学博物館創設40周年記念
日本文化人類学会50周年記念
特別展「イメージの力ー国立民族学博物館コレクションにさぐる」
関連ワークショップ

体感!!

イメージの力



2014年

11月22日(土)

対象：一般(中学生以上)

と

11月23日(日・祝)

対象：小学4年生～6年生

開催!!

時間：13:00～16:30 (12:30 受付開始) / 場所：国立民族学博物館 特別展示館
定員：各回16名(要事前申し込み/先着順) / 参加費：500円(別途特別展観覧券が必要です)
講師：吉田憲司(国立民族学博物館)、上羽陽子(国立民族学博物館)、齋藤玲子(国立民族学博物館)、
長屋光枝(国立新美術館)、山田由佳子(国立新美術館)
ファシリテーター：喜多川真由美(国立民族学博物館情報企画課)

イメージの森に分け入ってみよう!



国立民族学博物館創設40周年記念
 日本文化人類学会50周年記念
 特別展「イメージのカー国立民族学博物館コレクションにさぐる」関連ワークショップ

研究者といっしょに特別展をまわろう！



体感!! イメージの力

みんなはどんな風を感じているの？



Researcher Workshop

イメージのつくり方や受けとめ方に、人類共通の普遍性はあるのかをさぐってみよう!!
 今回のプログラムは、研究者と参加者でチームをつくってすすめます。
 まずは、みんなで特別展示館めぐりからスタート。展示場にはさまざまな資料が展示されています。それらの資料を見て、どんな印象を受けるのでしょうか？まわりの人と同じこと、それとも、まったく違ったことを感じるのでしょうか。
 さまざまな資料と出会ったあとは、そこから受けた印象はどうしてそう感じたのかを考えながら、チームの仲間とテーマにあった資料選びをします。
 多くの展示資料の中から、一体どんなものが選ばれ、集まってくるのでしょうか！
 イメージの森に分け入り、研究者といつよりも濃密なみんばくをあじわってみよう！



みんなはどんな風を感じているの？

いっしょに体感!!する研究者

アフリカを中心とした、儀礼や仮面の研究を進めるとともに、ミュージアム(博物館・美術館)における文化の表象のあり方を研究しています。



上羽 陽子
 (国立民族学博物館)

北海道のアイヌ民族、カナダ、アラスカなど寒い土地に暮らす先住民族の文化と歴史、そしてその生活用品の研究をしています。



長屋 光枝
 (国立新美術館)

フェルナン・レジェと、ジャン・フォートリエという作家を中心に、絵の中で身体がどのように描かれるかについて研究をしています。



吉田 憲司
 (国立民族学博物館)

インドで牧畜を主な生業とする人びとの刺しゅうや染め、織りなどの手工芸品の研究をしています。



齋藤 玲子
 (国立民族学博物館)

20世紀のドイツで、線・形・色だけで描かれた、「抽象絵画」と呼ばれる絵の分野について研究をしています。



山田 由佳子
 (国立新美術館)

研究者が所属するところはどこ？

国立民族学博物館
国立新美術館

国立民族学博物館(みんぱく)は、文化人類学・民族学の研究活動と、その成果を展示公開する博物館活動を一体的におこなう博物館をもった研究所です。
 国内外の美術を紹介する展覧会や、美術に親しむイベントなどを開催するほか、美術に関係した資料の収集・公開を行っています。

応募方法

事前申し込み制/先着順

往復ハガキまたはEメールにて、下記内容を明記のうえご応募ください。
 1通につき1名までのお申し込みとさせていただきます。

1. 参加希望日
2. 参加者氏名(ふりがな)
3. 年齢
4. 郵便番号・住所
5. 電話番号
6. 保護者氏名(11月23日参加希望の方のみ)

*ご応募いただいた方には当館より結果をお知らせします。*ご応募いただいた方の個人情報は、当館事業に関する目的以外では使用しません。

応募先

- 往復ハガキ
 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
 国立民族学博物館 情報企画課
 「特別展関連ワークショップ ○月○日参加希望」係
- Eメール
 件名:特別展関連ワークショップ ○月○日参加希望
 workshop@idc.minpaku.ac.jp

お問い合わせ

情報企画課 電話 06-6878-8532 (土日祝除く 9:00~17:00)

国立民族学博物館

- 開館時間 10:00 ~ 17:00(入館は 16:30 まで) ● 休館日 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)
- 特別展観覧料 一般 830 円/高校・大学生 450 円/小中学生 250 円
*観覧料割引についてはホームページでご確認ください。
- 交通のご案内
- 大阪モノレール... 「万博記念公園駅」徒歩約 15 分
*自然文化園窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
 「公園東口駅」徒歩約 15 分
*自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
- バス 「近鉄バス」(阪大本部前行き)阪急茨木市駅から約 20 分、JR 茨木駅から約 10 分
 「日本庭園前」下車徒歩約 13 分
- 乗用車 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約 5 分
*「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

[大阪・万博記念公園]
 〒565-8511
 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
 情報企画課
 Tel:06-6878-8532
 (土日祝を除く 9:00~17:00)
 http://www.minpaku.ac.jp/



みんな

Fête de la Musique

Fête de la
MUSIQUE
21 JUIN

音
楽

2
0
1
4
の
祭
日

in
みんな

6/22 目 10:25~16:35
(開場10:00)

無料観覧日 (本館展示場入館は16:30まで)

主催:国立民族学博物館 主管:音楽の祭日 日本事務局

※自然文化園を通行される場合は入園料 (大人250円、小・中学生70円)が
必要です。

※大阪モノレール「公園東口駅」下車、日本庭園前ゲート右側のみんな
専用通行口からは無料で来館することができます。

関西から

文化力
POWER OF
CULTURE

プログラム

会場：特別展示館

10:25~10:30 開会式

10:30~10:55 グルーボ福袋

南アメリカの民族音楽「folklore」。

10:55~11:20 LiLa

古楽器としてのリコーダーで、ルネサンス、バロック時代に作曲された笛のための曲を演奏。

11:20~11:45 The choo-san's show

70年代のフォーク、ロックを中心に、ルーツ色の強い曲を演奏。

11:45~12:10 バンチャ・バリワール

ネパールの撥弦楽器サランギと太鼓マダラなどを使ってネパールの民族音楽を演奏。

12:10~12:35 ティアレ ノ タヒチ 大阪

タヒチの伝統打楽器で構成されるポリフォニーな演奏とタヒチ人&日本人ダンサーによるダンス。

12:35~12:45 休憩

12:45~13:10 ライアー・アンサンブル ジルフェ

癒しの豎琴ライアーの、天使のささやきのような繊細で優しい音色や響きでやすらぎの曲を演奏。

13:10~13:35 Sol de las Indias

ボリビアのダンス。

13:35~14:00 Africa We go

東アフリカに位置するウガンダ、ケニアのドラム&ダンスパフォーマンス。

14:00~14:25 ハラウ フラ オ マカナアロハ

ハワイの楽器イプヘケ、ウリウリ等を用いて歌の意味を踊りとともに表現。

14:25~14:50 芸能The「新志」

日本の伝統楽器(三線、三味線、笛、太鼓、鉦等)を用いた、阿波踊りや沖縄民謡などの演奏と踊り。

14:50~15:15 大阪大学インターナショナルバンド

中国の横笛や沖縄の三線、南米アンデス地方の楽器など、世界各地の楽器を用いて演奏。

15:15~15:40 加藤敬徳

パンフルートの演奏。

15:40~16:05 THE ENGINES

世界にあまねくある大衆音楽からベトナム、ギリシャ、ユーゴスラビアなどの音楽を演奏。

16:05~16:30 神奈川馬匠と締組

和太鼓のオリジナル曲を演奏。

16:30~16:35 閉会式

※出演者や演奏時間は変更する場合があります。

音楽の祭日とは

1982年にフランスで、夏至の日(6月21日)にみんなで音楽を楽しむ「音楽の祭典」がはじまりました。それは、今、世界各地に広がりつつあります。日本でも、その趣旨に賛同する人びとの呼びかけで、2002年から「音楽の祭日」がスタートしました。音楽の祭日は夏至の前後の日(6月21日)に開催されます。本年度、みんばくでは6月22日(日)に開催いたします。

*音楽の祭日 日本事務局

<http://www.mediatv.ne.jp/ongakunosaijitsu/>



会場：本館1Fエントランスホール

12:00~12:25 バシール・ビンタン

インドネシア西ジャワの竹の民族楽器アングロン等のアンサンブル。

12:25~12:50 Pulse

ピアノの原型のひとつとされる打弦楽器ダルシマーでのバロックとクラシックの演奏。

12:50~13:15 SWEET HARMONY(スウィートハーモニー)

日本古来の「やまとごころ」を世界の音楽文化と融合した創作歌曲により現代芸術形式で表現。

13:15~13:40 チャンドラ・バスカラ、パドマ・サリ、スワ・ギタ・ブルティウィ・ジャパン

バリ島の人々が信仰と共に育む「舞踊とガムラン音楽」に魅せられ各地で活動するグループの共演。

13:40~14:05 ÁNIMO(アニモ)

様々な珍しい民族楽器を使って、folkloreと呼ばれる中南米音楽を中心に演奏。

14:05~14:30 ゆや

小さなアコーディオン「コンサーティナ」でフランス語のシャンソンや子守歌を歌う。

14:30~14:55 叩研(TATA QUEM)

ブラジル北東部に伝わる、お祭り太鼓「マラカトウ」。色んな楽器を使って賑やかに演奏。

14:55~15:20 ダルマ・ブダヤ

インドネシア中部ジャワの民族音楽、ジャワ・ガムランの演奏。



国立民族学博物館

交通のご案内

- 大阪モノレール…「万博記念公園駅」徒歩約15分
*自然文化園を通行される場合は入園料(大人250円、小・中学生70円)が必要です。
「公園東口駅」徒歩約15分
*自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
- バス…[近鉄バス](阪大本部前行き)阪急茨木市駅から約20分、JR茨木駅から約10分、「日本庭園前」下車徒歩約13分
- 乗用車…万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分
*「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

みんばく クリック

[大阪・万博記念公園]
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
国立民族学博物館 情報企画課
Tel:06-6878-8532
(土日祝を除く9:00~17:00)
<http://www.minpaku.ac.jp/>



「音楽の祭日2014 in みんなく」報告書

平成26年6月22日(日)、国立民族学博物館で開催した「音楽の祭日2014 in みんなく」について下記のとおり報告します。

記

1. 日時【天候】 平成26年6月22日(日) 無料観覧日 10:25~16:35 【雨のち曇り】
2. 実施場所 特別展示館および本館エントランスホール
3. 参加人数 特別展示館 のべ2980名、エントランスホール のべ4357名
4. 出演者人数 172名・22グループ(新規9グループ含む)
5. 民博側担当 教員5名、機関研究員1名、広報企画室4名、情報企画課11名
6. アルバイト 5名(総合研究大学院大学生)(当日)運搬・搬入・会場撤収
7. 外部委託 特定非営利活動法人 人文力(当日)運搬・搬入・会場撤収:3名
(株)アーチェリープロダクション
(6月20日)機材設営:4名(当日)音響・照明調整:6名
ジャパンレントオール(株) スタッキングチェア200脚 レンタル・設置・撤収
(株)グラフィック チラシ印刷14,000部
井高野PDM(株) チラシ発送準備作業 425件
8. 費用 875千円〈内 訳〉

・特定非営利活動法人 人文力	97千円
・(株)グラフィック(印刷のみ)	83千円
・アルバイト謝金	38千円
・井高野PDM(株)	19千円
・(株)アーチェリープロダクション	410千円
・制服クリーニング	10千円
・ジャパンレントオール(株)	210千円
・名札ケース	8千円

9. 趣 旨

「音楽の祭日」は、1982年にフランスで生まれた「音楽の祭典」を原型に、毎年、夏至の日を中心に世界的に開催される行事で、わが国でも2002年から日本事務局が中心となって文化復興及び国際交流を目指して各種の文化施設で参加費無料の音楽会などが開催されてきた。民博では、「音楽の祭日」の趣旨に賛同し、社会連携の一環として、音楽家または音楽グループに博物館を開放することを目的としてイベント「音楽の祭日2014 in みんなく」を開催した。民博における「音楽の祭日」の開催は、2003年以来通算12回目となる。

10. 実施概要等

昨年と同様、特別展示館(約300席)およびエントランスホール(約150席)をメイン会場とした。応募があった出演音楽家・音楽団体22グループすべてに参加し演奏をおこなった。特別展示館の音響・照明およびエントランスホールの一部照明については、専門業者が担当した。昨年に引き続き、特別展示館の椅子のレンタル・設置を専門業者に依頼したため、事故も無く、準備もスムーズに行われた。午前中は雨が降っていたが、テレビ出演による広報の機会があったため、特別展示館、エントランスホールともに終始満席の状態となり、立ち見の観客が多くみられた。

11. 当日の様子



以上

展示分野

資料1. 本館展示新構築（文化資源プロジェクト（機関））

平成26（2014）年度は、平成20年度から開始された本館展示新構築の第7年次にあたり、本年度は、南アジア、東南アジア展示の新構築を進めて、平成27年3月19日に両展示を一般公開した。

資料2. 特別展（文化資源プロジェクト）

1. 国立民族学博物館開館40周年記念・日本文化人類学会創立50周年記念 特別展

「イメージの力―国立民族学博物館コレクションにさぐる」

2014年9月11日～12月9日

主 催：国立民族学博物館、国立新美術館

実行委員長：吉田憲司（文化資源研究センター教授）

実行委員：〔館内〕 上羽陽子、齋藤玲子、須藤健一、丸川雄三、山中由里子

〔館外〕 青木 保（国立新美術館長）

足羽與志子（一橋大学教授）

春日直樹（一橋大学教授）

窪田幸子（神戸大学教授）

小泉潤二

（日本文化人類学会会長・大阪大学特任教授・国際高等研究所副所長）

長屋光枝（国立新美術館主任研究員・企画室長）

南 雄介（国立新美術館副館長・学芸課長）

山田由佳子（国立新美術館研究員）

国立民族学博物館開館40周年・日本文化人類学会創立50周年記念事業として、2014年2月19日から6月9日まで、東京・国立新美術館において民博の所蔵品を展観する「イメージの力―国立民族学博物館コレクションにさぐる」を開催し、さらに同展を同年9月11日より12月9日まで、本館特別展示館で開催した。なお、同展はその後規模を縮小して、平成27年6月から8月まで福島県の郡山市立美術館へ巡回し、さらに平成28年には9月から12月まで香川県立ミュージアムでの開催が決定している。展示の内容は、民博のコレクションを通じて、人間の生み出すイメージの創造と享受の在り方に普遍性が存するか否かを検証するものであった。

資料3. 企画展（文化資源プロジェクト）

1. 企画展「みんなくおもちゃ博覧会——大阪府指定有形民俗文化財『時代玩具コレクション』」

2014年5月15日～8月5日

主 催：国立民族学博物館

プロジェクト・リーダー：日高真吾（文化資源研究センター准教授）

平成25年3月に大阪府より本館に寄贈された大阪府指定有形民俗文化財「時代玩具コレクション」について、これまでの研究成果を反映した展示をおこなった。同コレクションは、江戸時代から平成にかけての日本の玩具史を網羅しており、国内の玩具コレクションのなかでも大規模なものとなっている。この展示は、来館者の記憶を鮮やかによみがえらせてくれるものとなった。

2. 企画展「未知なる大地 グリーンランドの自然と文化」

2014年9月4日～11月18日

主 催：国立民族学博物館

プロジェクト・リーダー：岸上伸啓（研究戦略センター教授）

プロジェクト・メンバー：〔館内〕 齋藤玲子（民族文化研究部）

〔館外〕 Kasper Hansen（キヤスパー・ハンセン）デンマーク大使館

Jens Jensen（イエンス・イエンセン）デンマーク大使館

この展示では、本館所蔵品を中心に、高円宮コレクション、デンマーク王室コレクション、グリーンランド国立博物館・文書館、北海道立北方民族博物館などの所蔵品や映像・音響資料を用い、最新の研究成果をもとに、グリーンランドの自然と、そこに住む人びと（イヌイット、自称カラーリット）の歴史と文化を紹介した。また、その一部を平成27年3月28日から4月19日まで東京の代官山ヒルサイドフォーラム・ギャラリーにおいて展示した。

資料4. 巡回展（文化資源プロジェクト）

1. 巡回展「屋根裏部屋の博物館——Attic Museum——」

2014年3月21日～5月6日

主 催：埼玉県立歴史と民俗の博物館

会 場：埼玉県立歴史と民俗の博物館

この展示は、渋沢敬三の没後50年を記念して、平成25年9月から12月にかけて民博の特別展として開催された展示が巡回したものである。

資料5. 本館展示新構築の準備（文化資源プロジェクト）

1. アイヌ展示新構築事前調査

展示プロジェクト・リーダー：齋藤玲子（民族文化研究部）

展示プロジェクト・メンバー：〔館内〕 伊藤敦規、岸上伸啓、佐々木史郎、吉田憲司

〔館外〕 貝澤和明（社団法人北海道アイヌ協会）

北原次郎太（北海道大学）

瀧口夕美（編集グループSURE）

津田命子（北海道立アイヌ総合センター）

床 州生（阿寒アイヌ工芸品協同組合）

野本正博（財団法人アイヌ民族博物館）

山崎幸治（北海道大学）

平成25年度に引き続き研究会を開催し、アイヌ文化展示の基本設計に向けて、そのコンセプトやおもな展示資料について検討をおこなった。展示のセクション、サブセクション、コーナーについて検討するとともに、新規で製作依頼し収集すべき資料について、意見交換をおこない、決定した。また、基本設計案の図面をもとに修正すべき点や実施設計の課題等について検討した。

資料6. 特別展・企画展の準備（文化資源プロジェクト）

1. 日韓国交正常化50周年記念 特別展「韓日食博—わかちあい・おもてなしのかたち」

2015年8月27日～11月10日

会 場：国立民族学博物館

2015年12月上旬～2016年2月末

会 場：韓国国立民俗博物館

主 催：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

実行委員長：朝倉敏夫（民族社会研究部）

実行委員：〔館内〕 丸川雄三、金昌鎬（外国人研究員）

〔館外〕 千 鎮基（韓国国立民俗博物館）

金 永才（韓国国立民俗博物館）

林 史樹（神田外語大学）

守屋亜記子（女子栄養大学）

李愛俐娥（早稲田大学）

奇 亮（韓国国立民俗博物館）

安 廷允（韓国国立民俗博物館）

日韓国交正常化50周年を記念し、「食」をテーマとした特別展を日韓両国で開催する。今回の展示は、「食」を博物館でどのように展示するのか、多角的な技法による展示をもくろんでいる。韓国国立民俗博物館はじめ関係各機関との連絡・協議をおこなった。

2. 特別展「夷酋列像——蝦夷地イメージをめぐる 人・物・世界——」

2016年2月25日～5月10日

会 場：国立民族学博物館

主 催：「夷酋列像」展実行委員会（北海道博物館、一般財団法人北海道開拓の村、北海道新聞社）、国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館

実行委員長：日高真吾（文化資源研究センター）

実行委員：[館内] 佐々木史郎、齋藤玲子、野林厚志、吉田憲司

[館外] 右代啓視（北海道博物館）

内田順子（国立歴史民俗博物館）

山際晶子（北海道博物館）

横山百合子（国立歴史民俗博物館）

吉本 忍（国立民族学博物館名誉教授）

本展示は、蠣崎波響筆「夷酋列像」の実像を明らかにするとともに、この絵画が描かれた18世紀の蝦夷地とその国際性を広く紹介するものである。北海道博物館の開館を記念した特別展として開催し、国立歴史民俗博物館では企画展、国立民族学博物館では特別展として巡回する。

3. 企画展「岩に刻まれた古代美術——アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリヤン」の準備

2015年5月21日～7月21日

プロジェクト・リーダー：佐々木史郎（先端人類科学研究部）

プロジェクト・メンバー：[館外] 鶴丸俊明（札幌学院大学）

井出晃憲（京都大学大学院）

ロシア連邦ハバロフスク地方に暮らす先住民族ナーナイの村落であるシカチアリヤン村には、岩絵が残されており、しかも地元の住民がそれに独特の意味と解釈を与えて、聖なる遺物として守ってきた。本企画展ではその岩岸画の一部を写真と拓本を使って紹介するとともに、地元のナーナイの人々がそれをどのようなものとして伝承してきたのかを紹介する。

資料7. その他の文化資源プロジェクト

1. 平成25年度展示新構築にかかるみんなく電子ガイドコンテンツの製作（機関）

提 案 者：福岡正太（文化資源研究センター）

「朝鮮半島の文化」「中国地域の文化」「沖縄の暮らし」「多みんぞくニホン」の新構築に伴い、新たに必要となった電子ガイド用コンテンツ（日本語、英語、韓国語、中国語）を製作した。また、番号プレートを展示場に設置し来館者へのサービスを開始した。

2. 次期ビデオテークのユーザーインターフェースデザイン研究（機関）

提 案 者：福岡正太（文化資源研究センター）

次期ビデオテークの更改を視野に入れ、博物館における21世紀型ビデオライブラリーの提供方式を、ハードウェア・装置と操作画面のユーザーインターフェース（UI）に重点を置いて

調査・検討した。ユーザーが本館のビデオテークや他施設のビデオライブラリーをどのように利用しているのかについて調査し、装置とUIデザインを実証的に検討した。

3. 多機能端末における公開データベースの一般ユーザー向け応用の研究（機関）

提 案 者：福岡正太（文化資源研究センター）

標本資料目録、言語資料、服飾・身装文化資料などのデータベースは、現在 InfoLib（パッケージウェア）を使用して運用されている。しかし、そのUIは研究者・プロフェッショナル向けであり、一般のユーザー向けになっていない。そこでユーザーがどのように博物館のデータベースを利用するのかを調査するとともに、専門的知識がなくても利用できるようなUIを設計した。

4. 国立民族学博物館における展示情報の館外活用に関する技術的研究

— ビデオテークを中心とするみんぱくコンテンツ発信環境の構築 —（機関）

提 案 者：福岡正太（文化資源研究センター）

展示関係資料の館外活用例として、持ち出しが可能でタッチパネルによる直感的な操作が特徴のビデオテークのデジタルビューアを構築した。また既存の番組100本からなるテスト用のテーマコンテンツを製作し、館内でのデモを実施した。

5. 次世代みんぱく電子ガイドによる来館者向け Web サービスの研究と開発（機関）

— 観覧支援サービスと展示情報提示の整合 —

提 案 者：福岡正太（文化資源研究センター）

携帯端末で提供する次世代みんぱく電子ガイドを本格的な来館者向けサービスとして充実させ、提供すべきコンテンツと仕様を検討し試験環境の構築を行うものである。来館者が展示を観覧するうえでリアルタイムに提示できる支援サービスの内容を検討し、あわせてインターフェースと提示方式を設計したうえで試験環境による検証をおこなった。

6. 次世代ユニバーサルミュージアム／展示空間における知覚鑑賞の評価手法の開発

提 案 者：吉田憲司（文化資源研究センター）

本研究では、民博が目指すユニバーサルミュージアムの次のステップとしての次世代ユニバーサルミュージアム構築にむけて、多様な来館者が問題なくアクセスでき快適に観覧できるだけでなく、展示空間における知覚鑑賞が可能となる展示デザインの評価手法の開発をおこなった。また、その評価手法に基づいて、視覚障害者を対象とした触知案内盤を開発し、その特許申請をおこなった。

7. 企画展示場有効利用システムの開発（機関）

提 案 者：日高真吾（文化資源研究センター）

現行の企画展示場は、企画展が開催されていない際、休憩用のいすが設置されているのみで、本館展示場の美観を著しく損ねている。そこで、本プロジェクトでは企画展示が開催されていないときの空間利用として、過去の特別展のポスターを利用したシステムを開発し、来館者が安心できる空間を創出した。

資料8. その他の文化資源計画事業

1. 日本の文化展示「祭りと芸能」、「日々の暮らし」の部分改修

提 案 者：日高真吾（文化資源研究センター）

2012年度に新構築した日本の文化展示の「祭りと芸能」、「日々の暮らし」に関して、来場者アンケートの調査やプロジェクトチームによる再確認をおこなった結果をもとに、部分改修をおこなった。

2. 巡回展「マンダラ ― チベット・ネパールの仏たち ―」

2014年6月28日～7月31日

主 催：高知県立歴史民俗資料館〈公益財団法人高知県文化財団〉、国立民族学博物館、
一般財団法人千里文化財団

会 場：高知県立歴史民俗資料館

事業メンバー：〔館内〕 南真木人

〔館外〕 立川武蔵（国立民族学博物館名誉教授）

2003年3月～6月に民博で開催された特別展の巡回展である。2014年8月～9月に高知県立美術館にて開催の四国霊場開創1200年記念「空海の足音四国へんろ展」プレ企画展として開催された。マンダラについての理解を深める機会を提供し、民博の財産である標本資料を用いた研究成果の地域への社会還元をはかった。

3. 巡回展（機構連携展示）東日本大震災復興特別企画

「みんぱくおもちゃ博覧会（大阪府指定有形民俗文化財『時代玩具コレクション』）」

2014年9月11日～11月30日

主 催：国立民族学博物館、東北歴史博物館

(1)会 場：岩沼市民図書館ふるさと展示室

会 期：2014年9月11日～10月5日

(2)-1 会 場：石巻市「まんがる堂」2階オープンギャラリー

会 期：2014年9月12日～9月21日

(2)-2 会 場：石ノ森萬画館

会 期：2014年9月12日～9月21日

(3)会 場：気仙沼「海の市」2階オープンスペース

会 期：2014年9月13日～9月23日

(4)会 場：東北歴史博物館

会 期：2014年10月11日～11月30日

事業リーダー：日高真吾

事業メンバー：〔館内〕 丸川雄三、吉田憲司

〔館外〕 小池純一（国立歴史民俗博物館）

青木 睦（国文学研究資料館）

小谷竜介（東北歴史博物館）

上記の民博の企画展「みんぱくおもちゃ博覧会 ― 大阪府指定有形民俗文化財『時代玩具コ

レクシオン』」が、宮城県内4か所で巡回開催された。この展示に向けては、低コストで汎用性のある展示システムが開発され、被災文化財の確実な保存、継承にむけたモデルが示された。

4. 年末年始展示イベント「ひつじ」

2014年12月11日～2015年1月27日

提 案 者：野林厚志（文化資源研究センター）

年末年始期において干支を題材にした展示ならびに関連催事を行い、来館者に季節感を伝えるとともに、世界各地の「ひつじ」と人びととの関わりを示し、民博の教職員を対象にした、展示目的・構成の設定から展示資料の選定、および展示に至る活動の研修をおこなった。

文化資源関連事業

資料：JICA との連携による博物館学コース 2014年度研修内容

共通プログラム

共通プログラム（10週間）は、博物館活動全般を理解するための講義・実習（表参照）と研修旅行からなる。各講義には、各研修参加者の国や博物館の特徴、問題点などの紹介と討論の時間を含めるなど、講師や各研修参加者との相互交流・情報共有を図るための工夫を加えている。

2014年度の研修旅行は、中越、東京、広島、奈良であった。週末などに自主的に見学した博物館等を含めると、研修参加者は日本での研修期間中に多くの施設を訪れたことになり、これを通じて日本の博物館事情や文化を理解してもらった素地ができたものと考えられる。

研修参加者には、自国の博物館事情等を紹介するミュージアムレポート、自身の専門に関する専門レポート、研修期間の最後に帰国後の普及計画を発表するファイナルレポート（普及プログラム案）などの発表の場が用意された。専門レポートは、自身の専門について関連する講義の中で報告するもので、自身の経験と問題点を、他の研修参加者及び日本側の関係者が学び、相互に議論する好機となった。また、ファイナルレポートでは、各研修参加者は、制度的・予算的に実現可能な普及プログラム案の策定に取り組み、本コースの成果が母国に順次、普及されることが期待できる内容であった。JICA では、研修終了から半年以内にその成果や進捗状況を検証することとなっている。

2014年5月31日には、民博において、ミュージアムレポートをさらに一層、展開させた公開フォーラム「世界の博物館2014」が開催された。一般参加者50名と関係者25名、計75名の人が集い、普段なかなか知る機会のない、4カ国の博物館事情に関する報告を聞くことができた。この公開フォーラムは、また、終了後に開かれた交流会とともに、研修参加者と一般の人びとや博物館関係者、学生が直接、交流できる貴重な場となった。

表 共通プログラムの内容

項目	詳細
(1)博物館学総論	日本での博物館制度
	博物館と文化表象
	博物館と観光
	文化の展示の現在
	メディアと博物館
	文化行政と文化財保護政策
	知的財産権
(2)収集・保存	資料整理と利用
	情報の利用とそのための施設
	データベース
	映像記録（取材から番組制作まで）
	博物館における環境
	保存と修復1（民俗誌資料と歴史資料）
	保存と修復2（考古資料）
	危機対策、災害対策
	保安、防災、防犯
	輸送と梱包
	映像資料の管理（マルチメディアを含む）
	(3)展示
常設展示—設計	
常設展示—ディスプレイ	
特別展示—設計	
特別展示—ディスプレイ	
近隣の博物館の見学	
モデル作成—目的と設計	
(4)社会連携	教育活動
	市民サービス、利用者交流
	評価（来館者調査）
	博物館とバリアフリー
	歴史教育と博物館
	人権と博物館
(5)運営	博物館の運営
	博物館とマーケティング
	売店経営、商品開発
	文化遺産と開発
(6)普及プログラム	

個別研修プログラム

後半に設定された3週間の個別研修プログラムでは、研修員は、週ごとに希望の研修を選択する。テーマは、予防保存、地域歴史博物館の運営（マネジメント）、写真、資料の保存と修復、博物館と地域コミュニティー、民族誌映像の撮影と編集、考古資料の発掘と保存管理、展示デザイン、記録とデータベースの9テーマである。

個別研修プログラムは専門性が高く、多くの機関の協力を得ながら実施した。いずれのプログラムも研修員の満足度は高く、個別研修期間の延長を求める意見が聞かれた。

（園田 直子・博物館学研修専門部会長）

みんぱく 企画展

Minpaku Toy Expo: The Antique Toy Collection
"Tangible Folk Cultural Property of Osaka Prefecture"

国立民族学博物館
創設40周年

企画展

大阪府指定有形民俗文化財 時代玩具コレクション

みんぱく おもちゃ 博覧会



会期

2014年5月15日(木)~8月5日(火)

会場

国立民族学博物館 企画展示場

開館時間

10:00~17:00(入館は16:30まで)

休館日

水曜日

無料観覧日

6月22日(日)

観覧料

一般420円(350円) / 高校・大学生250円(200円) / 小・中学生110円(90円)

- ()は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等) *大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程
- 障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに、無料で観覧できます。
- 毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園(有料区域)を通行される場合は、同園の入園料が必要です。

主催：国立民族学博物館 後援：大阪府 大阪府教育委員会

関西から
文化力
POWER OF CULTURE

Minpaku Toy Expo: The Antique Toy Collection
 Inheritable Folk Cultural Property of Osaka Prefecture

企画展

国立民族学博物館
創設40周年
 大阪府指定有形民俗文化財 時代玩具コレクション

みんなくおもちゃ博覧会

本展示は、平成25年に大阪府より当館に寄贈された大阪府指定有形民俗文化財「時代玩具コレクション」を用いて企画したものです。本コレクションは、江戸時代から平成にかけての日本の玩具史を網羅しているものであり、国内の玩具コレクションのなかでも大規模なものとなっています。

明治時代、日本で玩具専門店が開店しはじめ、外国の玩具をもとにした国産玩具が盛んに製造されるようになりました。そして、第一次世界大戦の影響でヨーロッパにおける玩具の生産が不調になると、国産玩具の生産が盛んになり、世界有数の玩具生産国へと成長しました。その後、関東大震災や、第二次世界大戦の影響で一時的に玩具の生産は低調になりますが、電動玩具などの発明で、1960年代には世界第1位の輸出玩具の生産量をほこるようになり、再び世界有数の玩具生産国へと成長します。そして、現在でもさまざまな玩具が製造されています。

本展示では、ブリキ製玩具、ボード玩具（盤上玩具）、マスコミ玩具、カード玩具（絵札玩具）の4つのコーナーから近現代日本の世相を概観していきます。これらの玩具は、ご来館の皆様のお思い出を色鮮やかによみがえらせてくれると思います。どうぞ、お楽しみください。



体験コーナー

あそびの広場 in おもちゃ博
 体験コーナーには、すざろく、おはじき、ぬり絵、メンコなど楽しい遊び道具がいっぱいあります。みんなくミュージアムパートナーズ (MMP) の「遊び隊」がいたら、声をかけてください。

イベント情報

みんなくウィークエンド・サロン
—研究者と話そう

日時 6月29日(日) 14:30~15:30
講師 日高真吾(国立民族学博物館 准教授)
場所 企画展示場
テーマ 時代玩具コレクションから見る日本の世相史

申込不要

要展示観覧券

有料プログラム

カレッジシアター 番外編
みんなく見学ツアー
 講師をまじえたフリートークと食事付

日時 7月24日(木) 11:00~13:30(予定)
会場 本館エントランスホール
講師 日高真吾(国立民族学博物館 准教授)
参加費 2000円(観覧料・食事代を含む)
募集人数 50名
申込先 「ウェブ産経」カレッジシアター係
 TEL: 06-6633-9087
主催 産経新聞社
協賛 国立民族学博物館 千里文化財団

要事前申込

日本玩具博物館(兵庫県姫路市)と本展「みんなくおもちゃ博覧会」の相互割引を実施します。

- 相互割引期間: 2014年5月15日(木)~8月31日(日)
- 上記期間中に観覧券(招待券等は除く)、友の会会員証、みんなくフリーパスを相互の窓口でご提示ください。以下の割引料金でご観覧いただけます。
 国立民族学博物館:
 一般420円→350円/高校・大学生250円→200円/小・中学生110円→90円
 日本玩具博物館:
 一般500円→400円/高校・大学生400円→320円/子ども(4歳以上)200円→160円
 ●他の割引との併用はできません。
 この機会をぜひご利用ください。

国立民族学博物館

交通のご案内

- 大阪モノレール... [万博記念公園駅]徒歩約15分
 *自然文化園窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
 [公園東口駅]徒歩約15分
 *自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
- バス... [近鉄バス] (阪大本部前行き) 阪急茨木市駅から約20分、JR 茨木駅から約10分 [日本庭園前] 下車徒歩約13分
- 乗用車... 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分
 *「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

みんなく クリック

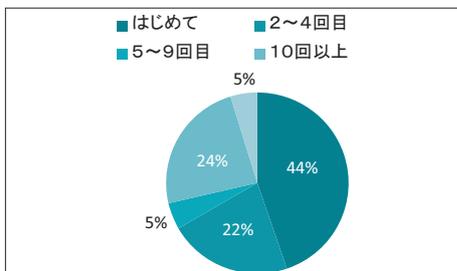
[大阪・万博記念公園]
 〒565-8511
 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
 Tel: 06-6876-2151(代)
 http://www.minpaku.ac.jp/



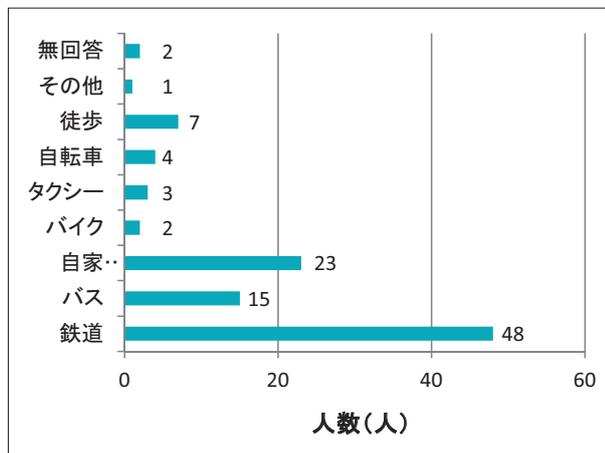
企画展「みんなくおもちゃ博覧会」 アンケートグラフ

○アンケート回答数 105件

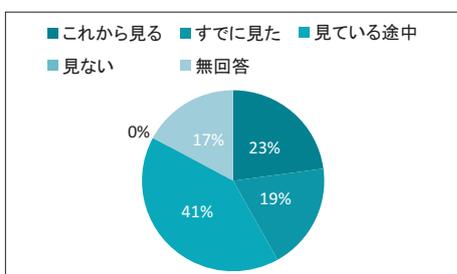
来館回数



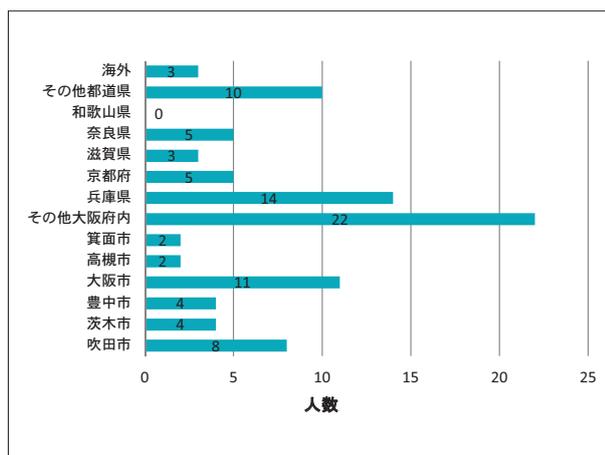
交通機関



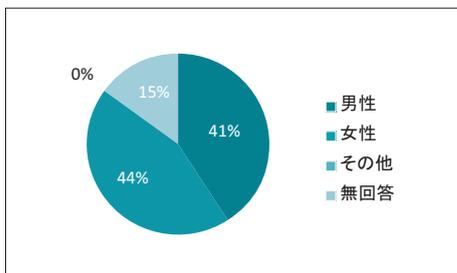
常設展示場の観覧について



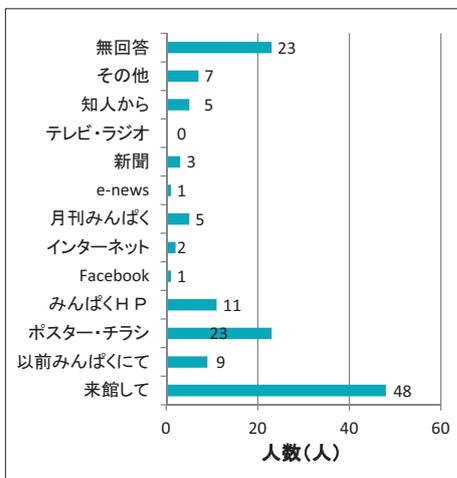
どこから来られましたか？



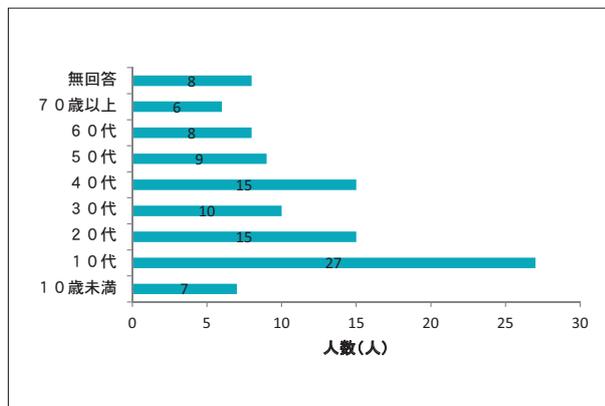
性別（男女比）



企画展を知ったのは（複数回答）



年代別



未知なる大地

Unknown Land, Greenland: Its Nature and Culture

グリーンランドの自然と文化



2014 9月4日[木] 11月18日[火]

会場 国立民族学博物館 企画展示場

【開館時間】10:00~17:00(入館は16:30まで)

【休館日】水曜日

【無料観覧日】9月13日(土)、9月15日(月・祝)、11月3日(月・祝)、11月15日(土)、11月16日(日)

【観覧料】一般420円(350円)、高校・大学生250円(200円)、小・中学生110円(90円)

- ※ ()は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等) *大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程
- ※ 障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに、無料で観覧できます。
- ※ 毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。
- ただし、自然文化園(有料区域)を通行される場合は、同園の入園料が別途必要です。

主催：国立民族学博物館 読売新聞社

共催：グリーンランド国立博物館・文書館 デンマーク国立博物館

特別協力：グリーンランド政府 在日本デンマーク大使館

協賛：大日本印刷株式会社 サントリーホールディングス株式会社 A.P.モラー・マースクAS

協力：北海道立北方民族博物館

「トッピラク」
高円宮家 所蔵 / 赤坂友昭 撮影



企画展

Unknown Land, Greenland: Its Nature and Culture

未知なる大地 グリーンランドの自然と文化

グリーンランドは大西洋の北西部にある世界最大の島です。約4500年も前から人類が住んでいましたが、日本ではグリーンランドの自然や人びとの生活についてほとんど知られていません。本企画展では、グリーンランドの自然、歴史と現状について、モノや映像、音響、文字情報を用いて4部構成で紹介します。第1部ではグリーンランド人の世界観、第2部では自然と人間の歴史、第3部では伝統文化とその変化、第4部では現代のグリーンランド社会について展示します。

みんなくゼミナール

はるかなる北の大地、
グリーンランドの
自然と人びとの暮らし

2014年10月18日(土)
13:30~15:00(13:00開場)

講師：岸上伸啓(国立民族学博物館 教授)
場所：本館講堂
定員：450名(先着順) 申込不要/参加無料

みんなくウィークエンド・サロン

グリーンランドの自然と文化

2014年9月7日(日) 14:30~15:30

講師：岸上伸啓
場所：企画展示場 申込不要/要展示観覧券

ワークショップ

グリーンランドの彫像トッピラクを作ろう

2014年9月7日(日)、10月25日(土)、11月2日(日)
各日13:30~16:30(13:00受付開始)

講師：田主誠(版画家)、岸上伸啓
場所：本館第3セミナー室、企画展示場
定員：各日15名 要事前申込/参加費500円
※別途展示観覧券が必要です ※詳細はホームページをご確認ください



12 写真：1~11 グリーンランド観光局 提供 / 12 デンマーク王室 提供

写真：グリーンランド国立博物館・文書館 提供

国立民族学博物館

交通のご案内

- 大阪モノレール… [万博記念公園駅] 徒歩約 15 分
*自然文化園入口で、当館の観覧券をお買い求めください。
同園内を無料で通行できます。
[公園東口駅] 徒歩約 15 分
*自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
- バス…………… [近鉄バス] (阪大本部前行き) 阪急茨木市駅から約 20 分、
JR 茨木駅から 約 10 分 [日本庭園前] 下車徒歩約 13 分
- 乗用車…………… 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約 5 分
*「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

みんなく クリック

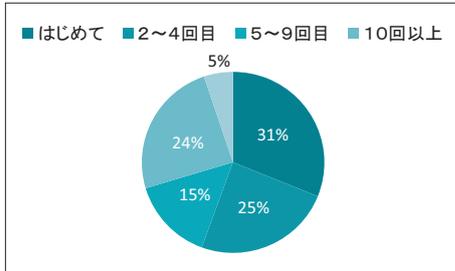
[大阪・万博記念公園]
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
Tel:06-6876-2151(代)
<http://www.minpaku.ac.jp/>



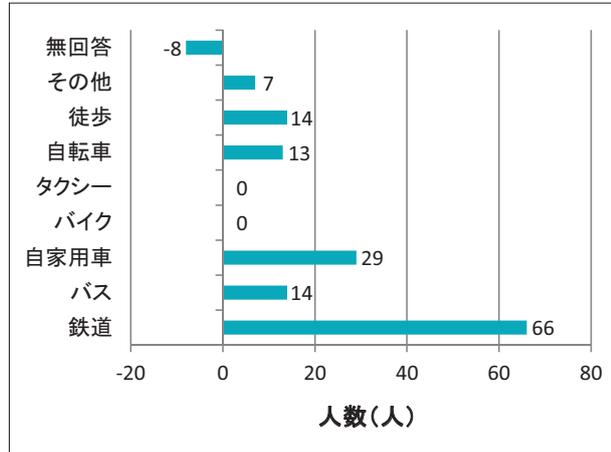
企画展「未知なる大地 グリーンランドの自然と文化」 アンケートグラフ

○アンケート回答数 105件

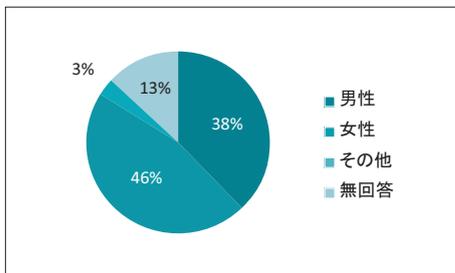
来館回数



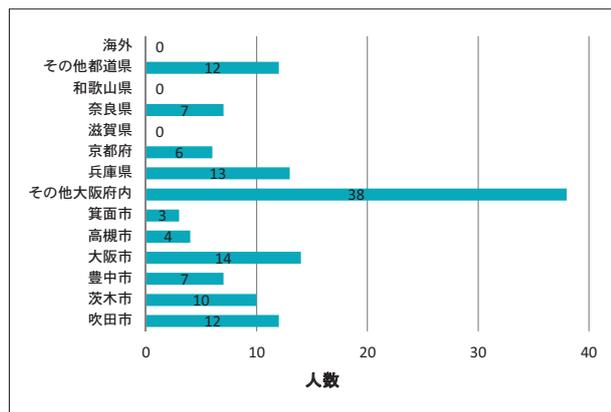
交通機関



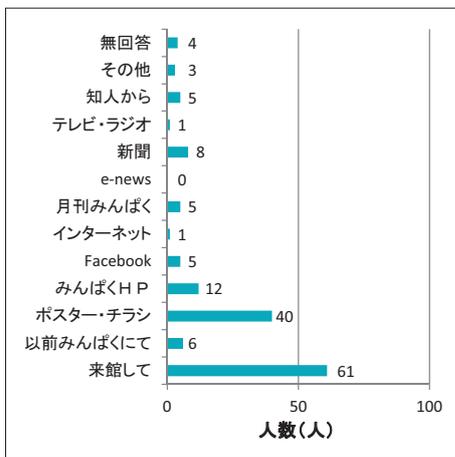
性別 (男女比)



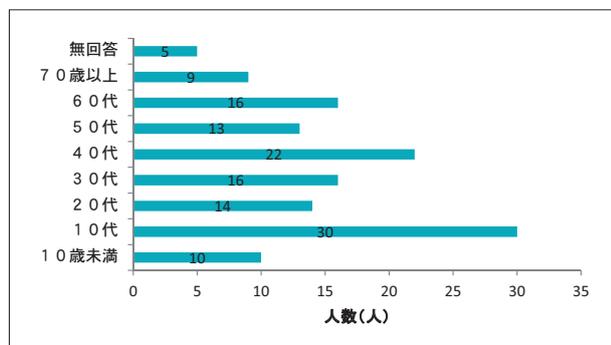
どこから来られましたか？



企画展を知ったのは (複数回答)



年代別



THE POWER



OF IMAGES

The National Museum of Ethnology Collection

特別展

イメージの力

国立民族学博物館コレクションにさぐる

国立民族学博物館創設40周年記念 日本文化人類学会50周年記念

2014年9月11日(木) - 12月9日(火)

【開館時間】 10時～17時(入館は16時30分まで)

【休館日】 水曜日

【会場】 国立民族学博物館 特別展示館

 国立民族学博物館

助成 日本万国博覧会記念基金
公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

関西から

 文化力
POWER OF
CULTURE

THE POWER OF IMAGES

The National Museum of Ethnology Collection



神像つきの椅子「カワトウツグツ」 民族/イアトムル
国名/パプアニューギニア



生命の樹 民族/メスティン 国名/メキシコ



ソワの盛置ムパツムテン 民族/バミレ
国名/カメルーン



樹皮画 民族/ナカナイ(推定) 国名/メキシコ



葬送用の柱「ピス」 民族/アスマット
国名/インドネシア
※写真は国立新美術館での展示風景

特別展

イメージの力

国立民族学博物館コレクションにさぐる

国立民族学博物館創設40周年記念 日本文化人類学会50周年記念

2014年9月11日(木) - 12月9日(火)

【主催】国立民族学博物館、国立新美術館 【共催】日本文化人類学会
【特別協力】民族芸術学会 【協力】国立情報学研究所、千里文化財団

東京・国立新美術館で公開され、話題を集めた展覧会「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」が、大阪の国立民族学博物館(みんぱく)に帰ってきます。人間は、その歴史を通じて、さまざまなイメージを生み出してきました。このイメージのつくり方や受けとめ方に、人類共通の普遍性はあるのでしょうか。「イメージの力」展は、みんぱくが所蔵するコレクションのなかから約600点の造形を精選し、観覧者の皆さんとともに、この問いに対する答えをさぐってみようという試みです。美術と器物、西洋と非西洋といった区別を乗り越え、われわれ人類の生み出すイメージの力を体感してみてください。

関連イベント (詳しくはホームページをご覧ください。)

みんぱくゼミナール

開催時間: 13:30~15:00(開場13:00) 場所: 本館講堂
申込不要 参加無料

- 9月20日(土)
「イメージの力—みんぱくのコレクションが語るもの」
講師: 吉田憲司
- 11月15日(土)
「美術館からみたみんぱくコレクション」
講師: 長屋光枝、山田由佳子、齋藤玲子 司会: 上羽陽子



手のあり 地域/カペロ
国名/エチオピア



投擲用ナイフ(槍) 民族/メスティン
国名/メキシコ

みんぱくウィークエンド・サロン—研究者と話そう

開催時間: 14:30~15:30 場所: 特別展示館、本館展示場
申込不要 要展示観覧券

- 9月28日(日) 山中由里子
- 10月5日(日) 三尾 稔
- 10月19日(日) 林 勲男
- 10月26日(日) 齋藤玲子
- 11月23日(日) 須藤健一
- 11月30日(日) 丸川雄三
- 12月7日(日) 上羽陽子



木彫像 民族/メスティン
国名/メキシコ

ワークショップ「体感!! イメージの力」

開催時間: 13:00~16:30 要事前申込 参加費500円 要展示観覧券
講師: 吉田憲司、上羽陽子、齋藤玲子、長屋光枝、山田由佳子

- 11月22日(土) 対象: 一般(中学生以上)
- 11月23日(日) 対象: 小学4年生~6年生



木彫像/ライオン 地域/メキシコ
国名/メキシコ

国立民族学博物館

- 開館時間……………10:00~17:00(入館は16:30まで) ●休館日……………水曜日
- 特別展観覧料……………一般830円(560円)、高校・大学生450円(250円)、小・中学生250円(130円)
()は、20名以上の団体料金。その他の観覧料割引については、ホームページ等でご確認ください。
- 無料観覧日……………9月13日(土)、15日(月・祝)、11月3日(月・祝)、15日(土)、16日(日)

交通のご案内

- 大阪モノレール…「万博記念公園駅」徒歩約15分
*自然文化園窓口で当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
「公園東口駅」徒歩約15分
*自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
- バス……………[近鉄バス] (阪大本部行き) 阪急茨木市駅から約20分
JR茨木駅から約10分、「日本庭園前」下車徒歩約13分
- 乗用車……………万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約13分
*「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1 電話 06-6876-2151(代) URL <http://www.minpaku.ac.jp/> 公式Facebook <http://www.facebook.com/MINPAKU.official>

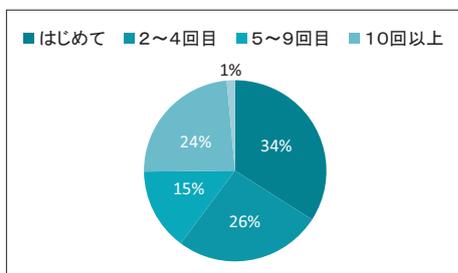


※表面の写真……仮面「キフェベ」 民族/ルバ 国名/コンゴ民主共和国

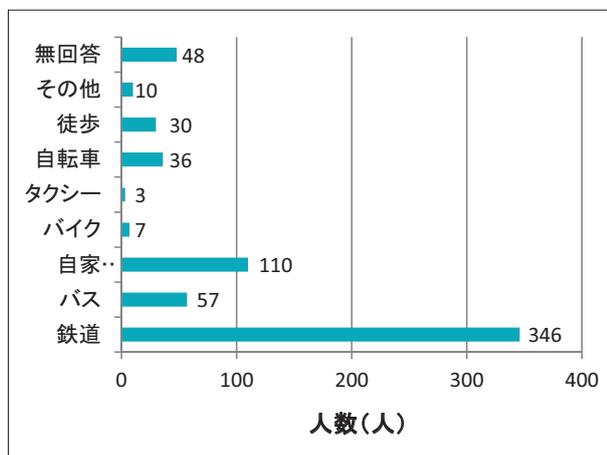
特別展「イメージの力 — 国立民族学博物館コレクションにさぐる」 アンケートグラフ

○アンケート回答数 593件

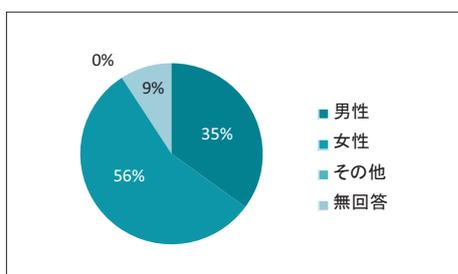
来館回数



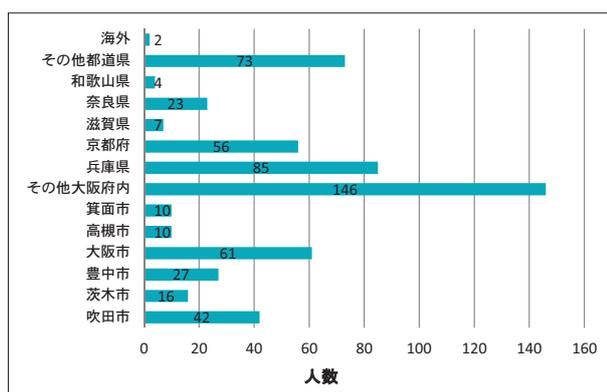
交通機関



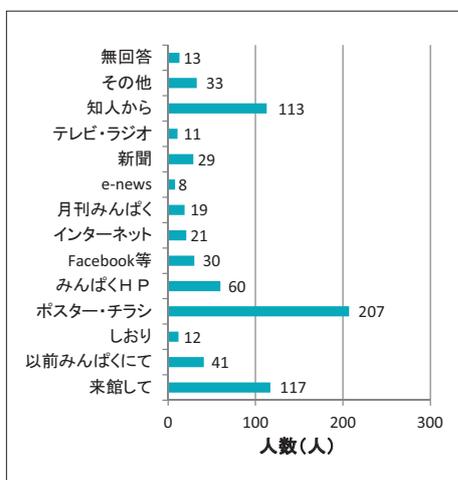
性別 (男女比)



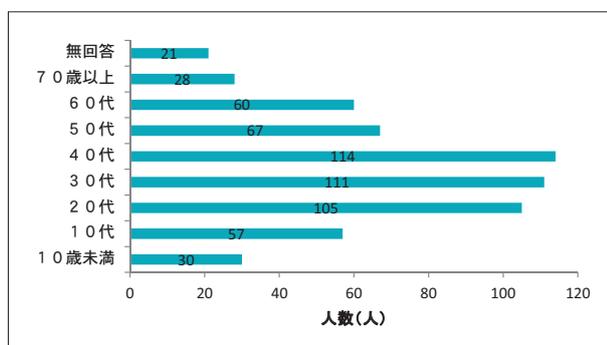
どこから来られましたか？



特別展を知ったのは (複数回答)

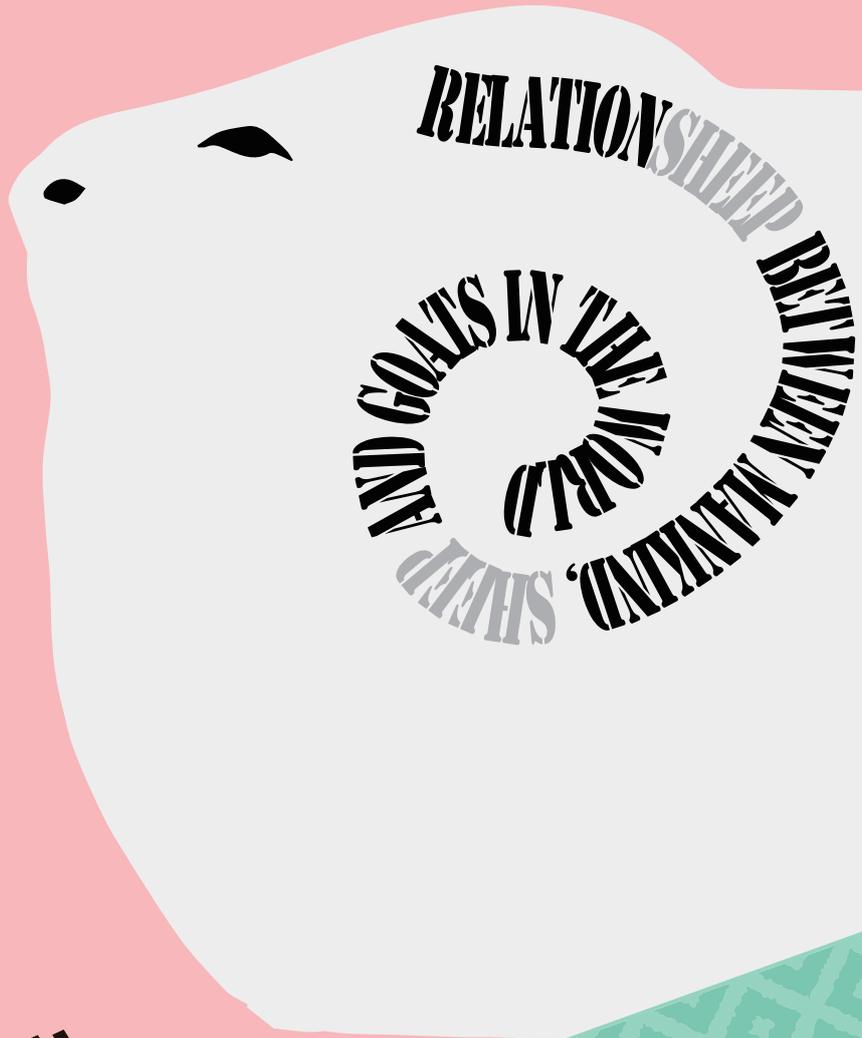


年代別



みんぱく

National Museum of Ethnology



ひろび

年末年始展示イベント

YEAR-END AND NEW YEAR EXHIBITION EVENT

【会期】 2014. **12.11** 木 — 2015. **1.27** 火

【時間】 10:00 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで)

【場所】 国立民族学博物館 本館展示場 ナビひろば

【休館日】 水曜日、年末年始(12月28日~1月4日)

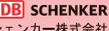
【観覧料】 一般 420円(350円)、高校・大学生 250円(200円)、小・中学生 110円(90円)

※ ()は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のリポーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等) *大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程

※ 障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに、無料で観覧できます。

※ 2015年1月12日(月・祝)は無料観覧日です。また、毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園(有料区域)を通行される場合は、同園の入園料が別途必要です。

【主催】  国立民族学博物館

【協賛】  JALマナナ株式会社   DB SCHENKER 西濃シエンカー株式会社

【協力】  Lufthansa Cargo Networking the world.

【後援】 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館 

ドイツと日本  ともに未来へ



年末年始展示イベント

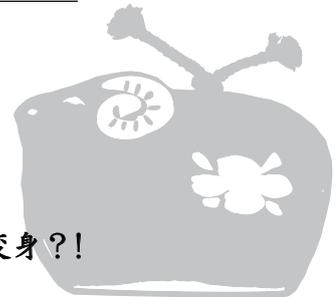
ひつじ

関連イベント

毎年恒例の干支展示イベント、第11回のテーマは「ひつじ」！
ひつじや山羊が人びとと、どのようにかかわってきたのかを「そだてる」「つかう」「あらわす」の3つの観点から、資料や写真パネル、映像を用いて紹介します。
みんぱくで眠っていたひつじたちが皆さんをお迎えします。

👁️ ギャラリートーク

2015年1月10日[土] 11:00～11:20、14:30～14:50
本館展示場 ナビひろば / 参加無料【要展示観覧券】
話者：野林 厚志(国立民族学博物館 教授)



👁️ ゴシゴシ☆フェルトーふわふわ羊毛が大変身？!

羊毛を使い、フェルトをつくるワークショップです
2015年1月12日[月・祝] 11:00～12:00、13:30～14:30、15:00～16:00
本館2階 第5セミナー室 / 参加無料 / 定員：各回12名(当日受付・先着順)
※6歳未満の方は保護者同伴でご参加ください。

みんぱくミュージアムパートナーズ (MMP) 企画

👁️ おりがみで遊ぼう！ ～干支シリーズ「未」^{ひつじ}～

おりがみで干支の「ひつじ」を折るワークショップです
2015年1月12日[月・祝]
11:00～、11:30～、13:00～、13:30～、14:00～ ※各回30分程度
本館1階 エントランスホール / 参加無料 / 定員：各回10名(当日受付・先着順)



👁️ えとの未^{ひつじ}で絵馬を描こう！

本館展示場にある「ひつじ」をスケッチして、絵馬をつくるワークショップです
2015年1月18日[日] 10:00～16:00 ※随時受付
本館1階 エントランスホール / 参加無料【要展示観覧券】 / 定員100名(当日受付・先着順)

👁️ 干支にちなんだ西アフリカの昔話を語る

干支の動物がでてくる西アフリカの昔話をお話します
2015年1月18日[日] 11:30～12:00、14:00～14:30
本館1階 エントランスホール / 参加無料

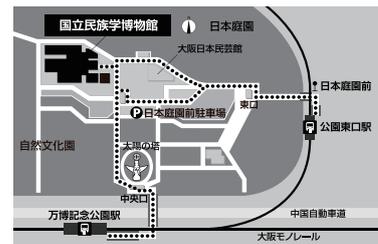


📍 国立民族学博物館

交通のご案内

- 大阪モノレール……………「万博記念公園駅」徒歩約15分
*自然文化園窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。
同園内を無料で通行できます。
- バス……………[公園東口駅]徒歩約15分
*自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
- バス……………[近鉄バス](阪大本部前行き)阪急茨木市駅から約20分、
JR 茨木駅から約10分、「日本庭園前」下車徒歩約13分
- 乗用車……………万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分
*「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

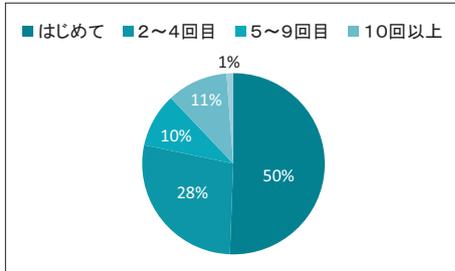
[大阪・万博記念公園]
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
Tel:06-6876-2151(代)
<http://www.minpaku.ac.jp/>



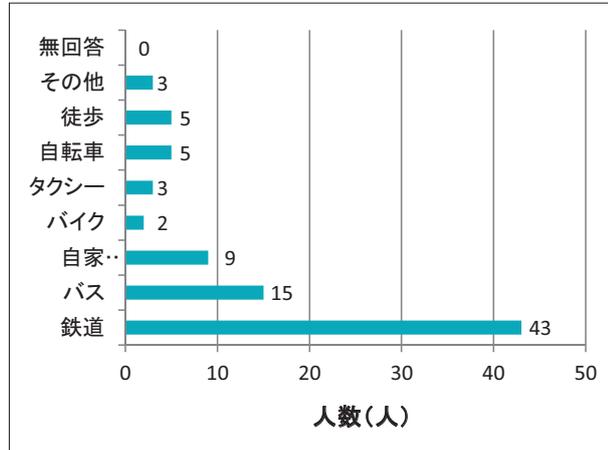
「年末年始展示イベントひつじ」 アンケートグラフ

○アンケート回答数 83件

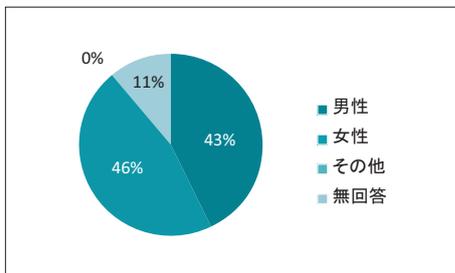
来館回数



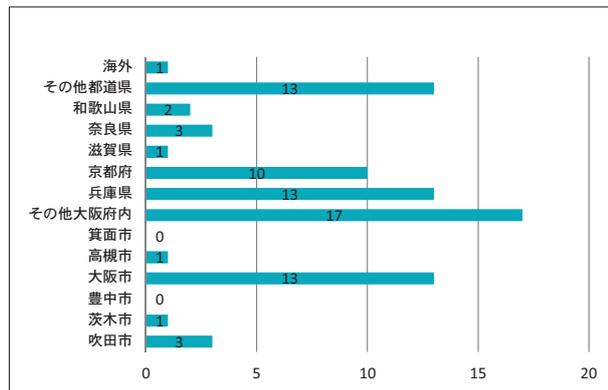
交通機関



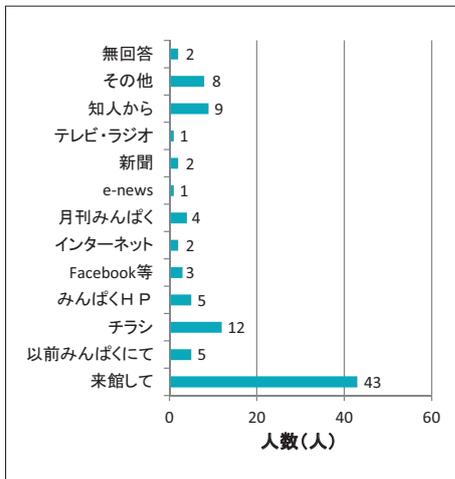
性別 (男女比)



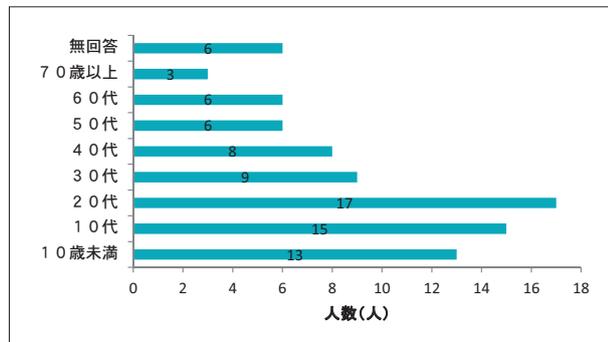
どこから来られましたか？



企画展を知ったのは (複数回答)



年代別





スタッフ紹介



スタッフ紹介（2014年度）

野林厚志 [のばやし あつし] センター長（併）教授

久保正敏 [くぼ まさとし] 教授

園田直子 [そのだ なおこ] 教授

信田敏宏 [のぶた としひろ] 教授

吉田憲司 [よしだ けんじ] 教授

上羽陽子 [うえば ようこ] 准教授

林 勲男 [はやし いさお] 准教授

日高真吾 [ひだか しんご] 准教授

福岡正太 [ふくおか しょうた] 准教授

南真木人 [みなみ まきと] 准教授

山本泰則 [やまもと やすのり] 准教授

川瀬 慈 [かわせ いつし] 助教

中村嘉志 [なかむら よしゆき] 客員教授

平井康之 [ひらい やすゆき] 客員教授